

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1
DP2
DP3
DP4
DP5
DP6
DP7
DP8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
1	全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1	必修					1.高等学校と大学の学びの違いを理解し、具体的に自分自身で学習計画を立て、到達目標に鑑みて修正を定る自主自律性を体得する。2.単位制度を理解し、履修申請、年次計画、成績評価なども理解する。3.学内学習施設、学部事務、保健室など学習をサポートする施設利用について知る。4.授業内の学習作法（ディスカッション、グループ学習、演習など）、予習、復習、授業課題など授業外の学習作法を知る。					○	◎		○
2	全学部共通基盤科目群	自然科学概論	2	選択			○		人間は古来、我々を取り巻く自然の理解に努めてきた。本講義では、歴史を振り返りつつ、人類が到達した現在の自然観について、目に見えない極微の世界から等身大のスケール、更に銀河・宇宙などの極大の世界に至るまでを概説する。自然と人間について深く考える姿勢を培い、3.11後を生きるための基礎的科学知識を身に付けることを目標とする。								◎
3	全学部共通基盤科目群	生命現象の理解とその応用－生命科学	2	選択					生命科学は現代人にとり必須の教養であるが、研究や開発のスピードが極めて速いため一般には学ぶ機会が少ない。本講義では、生命の仕組みと、生物の多様性の創出メカニズムについて、生命の本質を科学の視点から理解する。そのうえで、遺伝子工学や細胞工学などを中心に、ガン治療、生殖医療、ワクチン等予防医学などの先端的な医療や食糧増産技術など、我々の生活に活用されている生命科学の応用技術についての基礎知識を学ぶ。								◎
4	全学部共通基盤科目群	生物からみた環境の仕組み－生態学	2	選択					地球環境を支える「自然」の仕組みを理解するうえで重要な生態学（Ecology）の基礎を学ぶ。生態系の構成要素やその機能、様々な生物の生活史（生きざま）を知り、生物の多様性やその創出機構、そして生物が我々の「環境」をどのように支えているのかを理解する。特に、生物が互いに影響を与える生物間相互作用の重要性に着目し、「生態系の中での人間」という視点から環境問題を考えるきっかけとしたい。								◎
5	全学部共通基盤科目群	食環境論	2	選択					食品衛生行政、食育、食中毒等について学び、「安全・安心な食」とは何かを考える。また、SDGs（持続可能な開発目標）、フードテック、食品廃棄、プラスチック問題、食料危機等の近年の国際的な取り組みや課題について理解を深め、私たちを取り巻く食環境をどのように持続可能なものにしていけばよいのかを考える。なお、毎回講義内容をマインドマップの手法を用いてノートにまとめ、事前・事後学習に役立てる。								◎
6	全学部共通基盤科目群	香りと環境	2	選択					私たちを取り巻く環境にはさまざまな香り、においが存在している。異なる視点から香りやにおいをテーマに取り上げた新聞記事を読み、その作用や役割を考える。毎回、事前学習・事後学習で自身の意見をワークシートにまとめる。また、香りに関する自身の経験を振り返ったり、香りを生かすアイデアを提案したりする機会を設け、香りやにおいがもつ可能性を探る。								◎
7	全学部共通基盤科目群	身体の理解	2	選択					ヒトの身体は様々な器官が相互に関連して成り立っている。これらの器官が複雑に、協調しながら運動は起こっている。この授業ではヒトの身体の構造や動きについて学ぶとともに、運動を起こす骨や筋について理解する。								◎
8	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA	2	必修				○	本講義では、Microsoftのアプリケーションを題材として、基礎的なビジネス文書の作成方法学ぶ。本講義で利用するアプリケーションは下記の4種類である。Outlook（メールの送受信）、Word（文書作成）、Excel（表計算の作成）、PowerPoint（プレゼンテーションの作成）。また、実践的な能力を身に付けるために、講義内で文書作成などの演習を行う。						◎		
9	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリB	2	選択				○	本講義ではPowerPointを題材として、意思伝達や相互理解などで重要な役割を果たすプレゼンテーション能力の向上を図る。実践的な能力を身に付けるために、講義内でスライドファイルの作成を行うことで知識の定着を図る。プレゼンテーションを実施することで、意思伝達や相互理解などのプレゼンテーション能力の向上を図る。					◎			
10	全学部共通基盤科目群	情報セキュリティA	2	選択					インターネットを中核とするITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となつてきている。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解する。								◎
11	全学部共通基盤科目群	情報社会と情報倫理	2	選択					メディアが社会に与える影響、情報倫理、多様性、プライバシーといった現代の倫理的課題を考察する。また、コンテンツの創作・利用に関わる著作権、肖像権、知的財産権等の法的基礎知識を学び、クリエイターとしての社会的責任を養う。								◎
12	全学部共通基盤科目群	人工知能論	2	選択				○	AI（人工知能）の基本原理と、AIGC（AI Generated Content）を含むメディア芸術における多様な活用事例を観察する。AI技術が社会やクリエイティブ活動に与える影響を理解し、その倫理的な側面について基礎的な知識を習得する。								◎
13	全学部共通基盤科目群	データサイエンスI	2	必修		○		○	本講義では、データサイエンスをはじめ学ぶ学生を対象に、データサイエンスの導入、基礎、心得の3つを学ぶ。導入では、近年のデータサイエンスやAIの発展やしくみを学ぶ。基礎では、Excelによるデータ演習を実施する。心得では、データを活用する際の留意事項を学ぶ。最後にはデータをプロジェクトを実践することで、AI時代に必須のデータサイエンス・リテラシーの習得を目指す。								◎
14	全学部共通基盤科目群	データサイエンスII	2	選択		○		○	本講義では、データサイエンスIで学んだ内容をもとに、プログラミングの基礎とデータ分析の実践を学ぶ。データサイエンスで主流のRを用いてプログラミングを学びながら、実際のデータ分析事例を題材にデータサイエンスの実践を行う。実際に手を動かしながらデータ分析を行うことで、データサイエンティストとして第1歩を踏み出すことを目指す。								◎
15	全学部共通基盤科目群	モデル化とシミュレーション	2	選択				○	コンピュータの演算能力の向上と記憶容量の大規模化に後押しされ、コンピュータシミュレーションは天気予報や地球温暖化予測などの自然科学分野だけでなく、物流の最適化や株価変動、災害時の人間の行動予測などの社会問題にも幅広く応用され、大きな成果を上げている。本授業では、社会科学と自然科学の分野から幾つかの問題を取り上げて、コンピュータシミュレーションによる問題解決の実験を学ぶ。								◎
16	全学部共通基盤科目群	プログラミングA	2	選択				○	この授業では、Pythonというプログラミング言語を用いて、プログラミングの基礎を一から学修する。Pythonの利用方法や特徴、基本的な用語の説明から入り、基本的な入出力操作や、if文やmatch文を使ったプログラムの流れを制御するための分岐構造、複雑な条件分岐における入れ子構造、while文やfor文を使ったプログラムの繰り返し処理や多重ループなどについて学修する。								◎
17	全学部共通基盤科目群	アルゴリズムA	2	選択				○	本講義では、学習初心者を対象にアルゴリズムとは何かから初めて、アルゴリズムの基礎的事項を教授する。まず、データ構造（配列・リスト・配列・スタック・キュー・木構造など）とアルゴリズムとの関係性を学ぶ。次に、データ探索（順次探索法・二分探索法など）を例に基本アルゴリズムと処理効率について考える。								◎
18	全学部共通基盤科目群	情報システム論	2	選択				○	情報システムは、経営戦略を考える上で中核的な役割を担っており、その重要性は増すばかりである。また、情報システムを成り立たせている情報通信技術（ICT）の進歩は著しい。この進歩を支えられて急速に業績を伸ばす企業が経済を牽引する存在になっている。そこで本授業は、経営情報基礎論で学んだコンピュータに関する知識を復習しながら、より発展した詳しく情報システム内容について知識を深める。								◎
19	全学部共通基盤科目群	統計学	2	選択					統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。1、記述統計の基礎：平均値、グラフ化など、統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。2、確率変数と確率分布：統計モデルを定式化するために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。3、推測統計の基礎：主に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。					◎			

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8
- 文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
20	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(解析)	2	選択				○	本授業では、微分積分の基本概念を学び、数学的な計算力を養う。前半では、等差数列・等比数列を中心に数列の一般項や和の計算を学び、数列の極限について理解を深める。次に、関数の極限や微分法を学び、関数の変化の特徴を数学的に捉える手法を修得する。後半では、積分法を学び、不定積分・定積分の計算を通じて、面積や体積の求め方を修得する。						◎		
21	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(線形代数)	2	選択				○	本授業では、線形代数の基礎として行列の計算方法とその応用を学ぶ。前半では、行列の基本的な用語を理解し、行列の簡約化や行基本変形を用いた連立1次方程式の解法を修得する。次に、行列の演算(和、スカラー倍、積)や逆行列、行列式の計算を学び、行列の性質を分析する基礎力を養う。後半では、行列の応用として産業連関分析やMarkov連鎖を学び、行列を用いた数理モデリングの基礎を修得する。						◎		
22	全学部共通基盤科目群	インターネット配信	2	選択					急速に普及したインターネット動画配信を対象に、その特性と可能性を理解し、効果的な活用法を探究することを目的とする。専用機材や汎用機材を用いたストリーミング配信の企画・構成・運営を初歩から応用まで学び、映像メディアの新たな表現形態を実際に体験的に理解する。さらに、実際の生配信制作を通じて、情報発信の実践力を獲得し、現代のメディア環境に対応できる知識と応用力を養う。							◎	
23	全学部共通基盤科目群	観光の現在と未来	2	選択					本講義は、観光が求められる現代的意義を理解し、観光の多様性と社会との関わりについて学修することが目的である。そのため、講義は様々な分野の教員が担当するオムニバス形式で展開する。人類学や行動論などの切り口から学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光資源(芸術、健康、自然など)や、観光と社会の関わり(ビジネス、まちづくり、メディア)についての事象を取り上げ、観光学への理解を深める。							◎	
24	全学部共通基盤科目群	ヘルスツーリズム	2	選択					少子高齢化社会を迎え、健康づくりが「個人生活の質」から「地域・環境の質」まで求められており、新しい健康観念・ウェルネスが提唱されている。本講義では、健康増進や環境及び地域文化とのかかわりで心身を癒す広義のヘルスツーリズムの概念を理解し、生涯に渡って、ウェルネスの考え方、ウェルネスのライフスタイルを維持するための基礎知識を身につけることを目的とする。							◎	
25	全学部共通基盤科目群	社会心理学	2	選択					本講義ではまず、自己概念や自己意識などに関する捉え方を学ぶことで私たちが他者から影響を受けていることを理解する。その上で、対人認知や印象形成など他者をどのように認知するのか、他者とのかわり方はどのように作られていくのかということについて心理学的な観点から理解していく。さらに私たちが集団の中でどのように行動するのか、集団における心理についても理解を深める。							◎	
26	全学部共通基盤科目群	生活と文化	2	選択					私たちは古来から育まれてきた日本の文化を受け継いで生活している。また、日々の生活を通して日本の文化、地域の文化、家族の文化を訪いでいる。授業では、共生社会の基本的理念と課題を学び、少子高齢化社会の市民生活の動向とライフスタイルの変化を考察し、具体的事例を通してその方向性と課題について、講義および振り返りによって理解を深める。							◎	
27	全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論	2	選択					生涯スポーツとは、スポーツを通じて生活の質の向上を目指し、個人のライフスタイルに応じた運動やスポーツを生涯にわたって楽しむことである。本授業では、スポーツについて人文科学(歴史)、社会科学(国の政策)、自然科学(人体の構造や機能)などの観点から理解を深めるとともに、運動やスポーツを実施するための基礎的なトレーニング方法を学ぶ。							◎	
28	全学部共通基盤科目群	スポーツ社会学	2	選択					現在、我々が慣れ親しんでいる多くのスポーツの原型は、19世紀末イギリスを中心にヨーロッパから世界中に伝えられたものであるが、社会環境の変化にともない、スポーツが社会に果たす役割や意味は変化してきている。本授業では、スポーツやスポーツの歴史を理解した上で、現代社会におけるスポーツの考え方や問題点を明らかにし、各々の問題点について自らの意見を論理的に説明できることを目標とする。							◎	
29	全学部共通基盤科目群	ボランティア論	2	選択					この授業では、地域もしくはコミュニティ、ボランティアというキーワードが含みもつ意味を整理した上で、日本における地域社会やボランティアの現状について精査していく。次いで、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など福祉の各領域において展開するボランティア、環境ボランティアや災害ボランティアといった様々なボランティアの意義をコミュニティという文脈において整理してみる。最後に地域において展開されるボランティア活動をどう支援し、とりまとめていくかという視点を示し、今後の地域社会におけるボランティアの可能性を考察する。							◎	
30	全学部共通基盤科目群	コミュニケーションの基礎	2	選択					現代社会において「コミュニケーション」の重要性は日々高まっていますが、そもそも「コミュニケーション」とはどのような概念・行為として定義できるのでしょうか。本講義では、コミュニケーションが単独で成立するものではなく、常に他者や「メディア」の存在を前提とすることに着目します。その上で、コミュニケーションを支える存在や情報環境について考察するとともに、20世紀半ば以降から現在に至るまで、メディアを通じたコミュニケーションがどのように実証的に捉えられてきたのかを具体的事例とともに検討します。こうした学びを通じて、現代のコミュニケーションを理解するための基礎的な視点を獲得することを目指します。							◎	
31	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトA	2	選択		○		○	アートを媒介としたコミュニケーションの実践を通じて、障がい者と地域の相互理解と関係形成を促進する。アール・ブリュットという既存の芸術教育や評価軸にとられない自由な表現を活用し、作品展示等の活動の企画・実施・評価を通して、地域課題の把握と解決に向けた実践力および協働的態度を養うとともに、地域共生社会の実現に資する力を育成する。						◎		
32	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトB	2	選択		○		○	本演習は、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に取り組むプロジェクトを実施する。参加学生は、ひとりひとりが主体となり、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々と協働して取り組むことを目指す。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養うことを目的とする。							◎	
33	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトC	2	選択		○		○	デジタル化の進展に伴う高齢者のデジタルデバイドの課題に対し、スマートフォンの活用支援を通じて解決を図る。学生がデジタルコーチとして講習会の企画・実施・評価を行い、利用方法の説明技術および支援力を修得するとともに、高齢者の生活満足度やQOL向上への効果を検証し、地域における実践力と協働的態度を養う。							◎	
34	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトD	2	選択		○		○	この科目では、東金市のオーリーブ産地化を様々な形で応援するプロジェクトを実施します。オーリーブの雑学・歴史・栽培から商品化、ヘルスケアなどの応用、地域とのかかわりなどを知り、イベントの企画・運営やオーリーブ関連商品の開発を通じ、オーリーブ産地化に携わる地域の皆さんと交流し、まちの活性化、地域住民の健康支援などについて考え、解決に向けた取組みを企画・実践します。							◎	

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1
DP2
DP3
DP4
DP5
DP6
DP7
DP8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
35	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトE	2	選択		○	○		本授業は、地域共生の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むプロジェクトである。 プロジェクトでは参加学生一人ひとりが主体的に行動し、異なる背景を持つ多様な人々、例えば、他学部の学生や、企業・地域の方々などと協働する。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。							◎		
36	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトF	2	選択		○	○		「競技レベル」「競技レベル」「年齢」によるフィジカルレベルや要求能力の違いを体験するとともに、それに応じたエクササイズ指導方法の立案を学び、実践する。若年者～高齢者まで、全年齢を対象に、「健康増進」「障害予防」の重要性を学ぶとともに、ライフステージの変化に応じて必要な機能の違いを学び、また生活を豊かにするために必要となる「運動」について理解する。そして、それらを企画・立案する経験を得る。							◎		
37	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトG	2	選択		○	○		子どもを対象とした防災教育の実践を通じて、地域におけるコミュニティ形成と課題解決を図る。学生が学童保育や放課後等デイサービス等の場で、かるた等を用いた防災教育活動の企画・実施・評価を行い、多様な背景をもつ地域住民や関係機関と協働する中で、コミュニケーション能力を高め、地域共生のまちづくりに資する実践力と協働的態度を養う。							◎		
38	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトH	2	選択		○	○		域学共創プロジェクトは、学生が主体となり地域の方々やと協働して取り組む。プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。当授業は、東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、実際にそれに関わっている街の人々から学ぶ。また実際に祭りに参加することで、祭りと地域、人々やと関わりについて理解を深め、人々との触れ合いを体感することにより地域の一体としての意識を高める。	○	○					◎		
39	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトI	2	選択		○	○		本講義は、東金・山武を中心とする千葉県内の自然環境の保全及び、農業などの一次産業に関わる地域課題について、地域の様々な団体と連携し、実践的に取り組むことを通じて、課題発見力、課題解決力等を養うものである。2025年度は地域の農業の人手不足によるフードロス、耕作放棄による里山環境の消失や生物の絶滅、町おこしなどのテーマに取り組んでいる。							◎		
40	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトJ	2	選択		○	○		当授業は、地域に沈着しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に取り組むプロジェクトを実施する。プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となり、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々やと協働して取り組む。プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。							◎		
41	全学部共通基盤科目群	史学概論	2	選択					人間社会の様々な事象（事件、制度、文化等）が現在あるような形と内容になった因果関係を探るのが歴史学である。先ず、歴史を研究するとはどのような行為かを考える。事実と史実と真実の違いは何か。次に、日本以外の地域の歴史のなかからテーマを選び、人間の歩みにおける因果律について考察したい。政治史を主としながらも、その裏にあるテクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類社会の発展を概観する。	◎		○						
42	全学部共通基盤科目群	日本史を学ぶ	2	選択					本科目は、日本の古代から中世、近世を経て、近代、現代へといった歴史の展開について、いくつかのテーマを設けて講義を行う。近代から現代にいたる政治史についての講義が多くなる予定であるが、社会史や文化史などのテーマも適宜取り上げたい。この受講によって、学生が、日本の歴史を学ぶ意欲をもち、今後の日本と世界のかわり方を考える力をつけることを目指す。	○	◎							
43	全学部共通基盤科目群	アジア史概論	2	選択					アジア地域、とりわけ東アジアは地球上の他地域から地理的に孤立した地域であるため、他地域における文明の展開とは異なる。近代以後のアジア史は自らの特質性を世界に組み込むための痛みや摩擦からの逃避として描くことができる。この近現代を理解するためには、近世以前の歴史もある程度理解する必要がある。生態系、技術、言語、法等の相互作用と変遷を、農耕、軍事、国語化、憲政等の具体例を検討しながら俯瞰する。	◎		○						
44	全学部共通基盤科目群	現代史入門	2	選択					近現代史を体系的に理解することで現代社会の背景を読み解く力を養うことを目的とする。前近代と近代の違いや二大戦以前からの世界情勢を追い、政治・戦争に加え経済・社会の流れを意識して学ぶことで、国際情勢の変化と日本の位置づけを考察する視座を得る。講義を中心に進め、映像資料を交えつつ歴史的背景や基礎知識を解説する。各回の小課題を通して因果関係を整理し、歴史的事象を自ら説明できる力を培う。	◎		○						
45	全学部共通基盤科目群	房総の文化と歴史	2	選択					本講義は、千葉県すなわち「房総」、及び東京都都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な特徴や特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿う形で学修する。併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。	○	◎							
46	全学部共通基盤科目群	映像メディア史	2	選択					人類は映像というメディアをどのように利用、活用してきたのか。 その歴史を追うと同時にメディアとしての映像はいかに発展してきたかを分析、考察する。	◎		○						
47	全学部共通基盤科目群	音楽史	2	選択					本授業では、世界の音楽産業に最も大きな影響を与えてきたポピュラー音楽を対象とし、その歴史的展開を概説するとともに、ジャンルごとに取り上げる作品を鑑賞し、作品の特徴や成立した時代について学ぶことを目標とします。	◎		○						
48	全学部共通基盤科目群	政治学入門	2	選択					戦後日本が一つのモデルとしたアメリカの民主政治がどのように機能するのかを学ぶことによって、政治学を学ぶに必要な基礎知識を習得することを旨とする。具体的には、第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑制の必要性を理解する。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら把握する。第三に、現代アメリカ政治の分権化の背景を知り、今日の民主主義諸国における政治の混迷の原因を考える。	◎								
49	全学部共通基盤科目群	経済学入門	2	選択					本講義は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学の基本的な概念や思考方法を習得することを目的とする。経済学を学ぶと経済学的な視点から論理的な意思決定ができるようになる。講義では日常の出来事や時事ニュースも題材にして、経済の仕組みや専門用語をわかりやすく解説する。また、経営学との違いにも触れつつ、ビジネスの現場でも応用可能な経済学的思考法を紹介する。								◎	
50	全学部共通基盤科目群	社会と経営	2	選択					企業経営とは、社会のニーズに対応する商品やサービスを開発し、それらの提供により価値提供を図りながら継続的、かつ発展的に活動してゆくことである。本講義は「企業価値」の側面からアプローチする新しいスタイルの経営学入門講座である。経営学の基本的知識の習得を到達目標とし、同時に社会と企業経営の関わりについて考察することを本講義のテーマとする。								◎	
51	全学部共通基盤科目群	社会と会計	2	選択					本授業では会計学の基本的なテキストを用いた上で、以下の3点を目的に開講する。1）財務諸表に企業の在り方や活動がどのように記載されるのかを大まかに理解する。2）社会人にとって必携の書である日本経済新聞の企業欄や証券欄を読みこなせる会計の読解力を身に付ける。3）より高度な会計学を学ぶ動機付けをする。授業はオンデマンド形式で行い毎回のテストと課題提出を求める。また期末テストとしてはレポートの提出を課す。								◎	
52	全学部共通基盤科目群	マーケティング論	2	選択					成熟した消費社会において、企業が顧客ニーズを捉え、価値を創造・提供し、競争優位を築くためのマーケティングの基礎を学びます。本授業では、マーケティング・ミックス（4P）、STP分析、製品ライフサイクルといった基礎知識はもとより、消費者行動の分析、商品、ブランド、価格、プロモーション、流通といったマーケティング戦略の実践面も具体的な事例(ケース)も紹介しながら習得し、問題解決能力を養います。									

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1
DP2
DP3
DP4
DP5
DP6
DP7
DP8
- 文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
53	全学部共通基盤科目群	広告戦略論	2	選択					広告業界の仕組みや役割を理解し、広告が完成するまでの流れを学ぶ。マスメディアを中心に、最新のデジタルメディアの動向や広告会社のコンテンツ戦略を考察する。広告代理店や制作会社など関連業界に関心を持ち、将来進路として志す学生に有益な知識と実践的視点を提供する。								◎	
54	全学部共通基盤科目群	社会学	2	選択					「社会とは何か」という根本的な問いを出発点に、個人の総和を超えて存在する社会の特質を理解する視点を養うことを目的とする。日本人やアメリカ人といった集団に関する言説の背景を手がかりに、なぜそのような「社会像」が語られるのかを考察する。授業はテーマごとに連続講義を行い、必要な情報や知識を提供すると同時に、受講者自身が思考を深める機会を設ける。理解度確認やレポートを通じて、多様な視点から社会を捉える力を培う。	◎								
55	全学部共通基盤科目群	社会調査	2	選択					この授業では、前半で社会調査に関する基礎的な知識を理解し、作業を通して実践的に調査法を学ぶ。その作業を通じて、複雑な社会の現実を思い込みにとらわれずに理解するために、客観的な情報を取り出す方法として社会調査という方法を体感する。誰もがデータを扱って、読み解く力が求められる時代にふさわしい力を習得する。							◎		
56	全学部共通基盤科目群	法律学概論	2	選択					市民社会の基盤を支えるものとして、法律制度が重要な役割を担う。本講義は、受講者諸君がリーガルマインドを養成するため、法律に関する基礎知識を教養として身につけることは、講義の目標である。本講義は、憲法・民法・商法の学者が共同編纂したテキストを活用し、法とは何かを初めに、法と裁判、日本の裁判制度と法解釈、さらにいくつか重要な実定法を紹介すると共に、法令制定のプロセスも紹介していく予定。	◎								
57	全学部共通基盤科目群	日本国憲法	2	選択					日本国憲法の理解を通して国政全般の基本的枠組みを知る。その際、国の統治機構や地方自治制度、現行憲法が掲げる基本原理（たとえば、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義等々）の考察をなし、その全体像の把握に努める。さらに、現行憲法制定の背景を探ることにより、昨今、話題の違憲・改憲論にも論及する。		◎							
58	全学部共通基盤科目群	著作権	2	選択					著作権や知的財産権の重要性にも触れ、自身の創造的な活動を社会で展開するための基盤を築く。								◎	
59	全学部共通基盤科目群	社会福祉学A	2	選択					21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助職にあるものにとって不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。								◎	
60	全学部共通基盤科目群	社会福祉学B	2	選択					本講義では、社会福祉の原典に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日の展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。								◎	
61	全学部共通基盤科目群	経営情報基礎論A	2	選択				○	ICTの進展に伴い、組織における情報化が深化してきている今日の社会においては、われわれ一人一人がICT利活用のための知識やノウハウを修得することが求められている。本授業では、情報学の学びにおける基礎を学修する。産官学が連携して推す国家試験である「ITパスポート試験」で出題される大分類項目のうち、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する基礎的知識を身に付けることを目標とする。								◎	
62	全学部共通基盤科目群	世界遺産のいま	2	選択					「世界遺産」は、日本では「観光」の視点から語られがちだが、本来は次世代に残したい地球上の「宝物」をバトンタッチするために制定された制度である。本講義は、世界遺産を「地域文化」「保存と活用」「環境とSDGs」「観光資源」など多様な視点から分析し、「世界遺産はだれが決めるのか?」「世界遺産に登録されるメリットとデメリットは?」などの疑問に向き合い、その深い理念を理解することを目的とする。								◎	
63	全学部共通基盤科目群	美学・芸術学	2	選択					「美」の理念（美しさ、立派さをうちに含む理念）という人間性の共通基盤に対する理解を深め、個々の人間の内に生みづく創造性を探ることをねらいとする。具体的には、美術・芸術作品の身近な経験を手がかりにその社会的・文化的・歴史的な存立条件を考察し、想像力を活かして過去の人々の同様の存立条件へと考察をひろげる。この作業を通して、美術・芸術一般の成立条件、さらには、「【美】とはなにか」という問いへと迫る。	◎								
64	全学部共通基盤科目群	表象文化研究	2	選択					映画、アニメ、舞台、音楽、マンガなど、3分野にまたがる多様なメディア芸術作品を多角的に分析し、その表現意図、構成、社会的背景を深く考察する。具体的には、物語構造、視覚表現、音響デザイン、そして作品が生まれた時代背景や社会情勢がどのように影響しているかを深く掘り下げ、批評的思考力を養う。単なる作品鑑賞に留まらない深い考察を通じて、自身の創作活動に活かす。	◎								
65	全学部共通基盤科目群	世界の文学	2	選択					「世界の文学」といえば、世界の料理を食べ歩く番組のように案内人の趣味を披露する科目かと思われるかもしれない。しかし文学を味わい比べるためには、一個人の趣味を超えて比較の観点と基準を他者と共有しうるかを構想し、その構想を他者とともに吟味しなければならない。それゆえ「世界の文学」は、近代の小説、詩、戯曲のようなジャンルを範疇みにせず文学とは何かを問い、文学の世界性をつかもうとする試みである。	◎								
66	全学部共通基盤科目群	演劇研究	2	選択					演劇・ミュージカル・舞踊といった舞台芸術を対象に、その歴史・構造・表現方法を多角的に学び、舞台ならではの表現力と社会的役割を理解することを目的とする。日本の伝統芸能から現代演劇、海外の主要作品やクリエイターまで幅広く取り上げ、作品や上演の背景を考察する。また、舞台表現に欠かせない俳優・演出家・ダンサーなど創り手の関わりを理解し、舞台芸術の魅力と可能性を検討する。映像資料や音楽資料も活用しつつ、受講者自身の体験や議論を通じて、舞台芸術を学ぶ基礎的視座を養う。	◎								
67	全学部共通基盤科目群	古典芸能研究	2	選択					伝統芸能の一つである落語を題材に、その歴史と変容を学び、口承文化の継承や現代的意義を考察する。名作や新作落語の内容を分析し、日本人の価値観や社会観の理解をめるとともに、実際の演じ方を体験することで、芸能の構造や表現を実感的に学ぶ。	◎								
68	全学部共通基盤科目群	文学を読む	2	選択					本授業は、日本の近現代文学において人や社会がどのように描かれているか、表現と内容の両面からみていくことで小説を読む力を育む。履修者自身が作品の全篇を読み通すことを重視し、比較的入手しやすい短編を取り上げる。作品について基礎的な解説を行ったうえで、文学理論の基礎的観念を導入しつつ、読みを例示する。内容については、生死、家族、運命といったテーマを設けて人間や社会のあり方について考える機会を提供する。	◎	○							
69	全学部共通基盤科目群	教育学	2	選択					教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識が必要となるのか、また、後半では、子どもの学習を促すには、動機づけやわかる授業をどうおこなうかを考えながら学習をすすめる。								◎	
70	全学部共通基盤科目群	心理学	2	選択					心理学は、人の意識や精神、それらの表れとしての行動を研究し、人間の心の理を科学的に解明しようとする学問である。本講では、科学としての人の「こころ」の様々な側面を探索していくことをテーマに、人の意識や精神活動及び心のケアとサポートについての理解を深めることを目標とする。心理学に関する基礎的なテーマを取り上げ、身近な事象や経験を通してながら、関連する見識について解説をし、理解を深めていく。								◎	

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1
DP2
DP3
DP4
DP5
DP6
DP7
DP8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
71	全学部共通基盤科目群	基礎の数学	2	選択					この授業では、採用テストSPI3の非言語分野、公務員試験の数的処理、情報科学に関連する数学の問題など、社会で必要とされる基礎的な数的問題を扱う。出題された内容をすべて解けるようになることが到達目標である。授業はオンデマンド形式の録画を視聴しながら取り組む演習方式である。毎回、講師がその回のトピックと例題を説明した後、受講者は出題された演習問題を解き、講師がその解説を行う。毎回小テストを課す。						◎		
72	全学部共通基盤科目群	ジェンダー論	2	選択	○				女性解放運動（フェミニズム）の歴史を学ぶことを通じて、ジェンダー研究がどのように発展してきたのかを理解する。そして現代社会において、ジェンダーに係る諸問題が極めて多様であることを様々な具体例を通じて学び、諸問題を解決していくための方策を各自が考察する。授業はオンデマンド形式で実施し、関連する資料を適宜示しつつ進めていく。	◎	○						○
73	全学部共通基盤科目群	根拠への問いー哲学へのとびら	2	選択					みずから問いを引きよ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一步でも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければならない学び、教師と称する立場の者がすでに隠し持って、定めている正解を求め暗記して復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。	◎							
74	全学部共通基盤科目群	異文化通応論	2	選択		○			本授業は、異文化コミュニケーション学、第二言語習得及び社会心理学の視点から異なる文化環境での適応を考察する。まず、文化や適応などの基礎概念を導入し、異文化体験に伴う不適応の実態と要因を解説する。次に、カルチャーショックの諸相やU字曲線などの適応モデルを紹介し、自身を知ることの重要性も習得させる。最後に、適応の条件や成長のプロセスとしての意義を理解し、異文化適応力を養うことを目標とする。	◎							○
75	全学部共通基盤科目群	宗教学概論	2	選択					日本人は無宗教とされるが、寺院の数だけでもコンビニの総数を上回る。今日、多文化共生が叫ばれるが、文化と宗教の関係は密接である。本講義では、一見すると宗教とは無関係なアニメ・マンガなどからも「宗教」を問うていく。また、「宗教」からさまざまな現代問題にも迫っていく。現代人に必要な一般教養として「宗教」を講義する。	◎							
76	全学部共通基盤科目群	倫理学概論	2	選択					道徳的指令集としての「倫理学」が、「善」や「正義」は個人や文化によって異なり明確な答えがないなどの理由によって否定されてきている現状を理解した上で、我々が日々倫理的に中立的であり得ているのかを再吟味する。その上で、哲学・倫理学の歴史的な英知を基に、21世紀における我々の社会・国家・世界における現実への顕在的・潜在的関与を自分自身で再構築し、それを日々の生活で実践していくことを追究する。	◎							
77	全学部共通基盤科目群	スポーツ科学A	1	選択		○			スポーツ実技科目である。スポーツ種目のルールを理解し、ゲームができる技能を習得する。主に球技等のチームスポーツを実施することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得を目標とする。さらに、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法で生涯にわたってスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにする。								◎
78	全学部共通基盤科目群	スポーツ科学B	1	選択		○			スポーツ実技科目である。スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれるが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では主に球技などチームスポーツを実施することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。								◎
79	全学部共通基盤科目群	しゃべりのスキルUp I	2	選択					社会生活やキャリア形成に不可欠な会話力を多角的に養う。発声・滑舌、文章構成力、語彙力、確証力、表現力などを段階的に学び、プレゼンや面接で役立つ言葉を使える力を身につける。双方向型とオンデマンド型を組み合わせ、インプットとアウトプットを実践的に強化し、即戦力となる表現スキルを習得する。								◎
80	全学部共通基盤科目群	Drug Action Science	2	選択					Drug Action Scienceはくすりの効果とその働き方について、花粉症や胃薬に効くくすりなど日常使用するものを取り上げて学びます。しかし、くすりの使い方を誤ると私たちに悪影響をもたらすことも学び、くすりを正しく使用する理由を理解しましょう。漢方薬という日本の伝統医学に基づくくすりがあるけど、どのような時に活用するのかなどのテーマからくすりに関するリテラシーを高めていきます。								◎
81	全学部共通基盤科目群	症状に合わせた健康セルフケア	2	選択					日本の医療制度の基礎や調剤薬局、ドラッグストア、クリニック、病院などの医療施設について理解し、健康診断における検査値異常時の対応や身体に異変を感じた時のセルフメディケーションについて学ぶ。								◎
82	全学部共通基盤科目群	感染症とくすり	2	選択					近年、新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症に対して改めて興味を持つ方が増えていますが、世の中には様々な情報が飛び交っていて、どれが正しい情報かわかりにくいのが現状です。本講義では、代表的な感染症を例に挙げ、病気になる仕組みについて学び、また、感染症にからならないようにするには、かかってしまったときにはどうすれば良いのかを理解することで、世の中にある感染症に関する様々な情報を吟味して身を守るための合理的な行動がとれるよう学習をすすめます。								◎
83	全学部共通基盤科目群	ハーブ・サプリメント・漢方薬	2	選択					日本では、生活習慣病（糖尿病、脂質異常症、高血圧など）などの慢性疾患の患者は年々増加している。生活習慣病を発症すると多くの場合、一生運にわたって治療を継続することになり、QOL (quality of life) が低下すると考えられている。そのため、健康維持・増進や疾病の発症予防に関わる知識を習得し、その知識をもとに自らの健康を管理することが重要である。								◎
84	外国語科目群	Fundamentals of English I	2	選択					高校英語で学んだ知識を基盤にし、それを実際のコミュニケーション能力として発揮することを目指す。積極的な参加が求められ、ペアワークやグループワークを通して学習する。各モジュールの初めに目標を設定し、終了時に振り返りを行い、自立的な学習力や能力を養う。テキストに関連するオンライン課題による予習・復習を定期的に行い、ライティング課題やTOEIC課題を行い、最終レポートを提出する。			○	◎		○		
85	外国語科目群	Fundamentals of English II	2	選択					Fundamentals of English Iで学んだ基礎を踏まえ、英語を使う自信と使う力をさらに広げることがを目指す。授業では協働的な活動を多く取り入れ、ディスカッションや課題解決を通して表現力を磨く。オンライン課題による予習・復習を継続し、反復を通じて定着を図る。学期中には複数のライティング課題やTOEIC関連の練習を行い、最終的にレポートをまとめて提出する。			○	◎		○		
86	外国語科目群	Oral Fluency I	2	選択					Oral Fluency は、学生のスピーキング力、とくに会話やディスカッションの能力を高めることを目指す科目とする。英語で会話や議論を行う方法を学び、流暢さを養いながら幅広い会話ストラテジーを身につけることを目的とする。さらに、日常的な話題に関する新しい語彙や表現を習得し、英語での討論力を強化する。			○	◎			○	
87	外国語科目群	Oral Fluency II	2	選択					Oral Fluency IIは、Oral Fluency Iで身につけた力をさらに広げるスピーキング・会話・ディスカッションの科目とする。ペアや少人数グループでのやり取りを通して積極的な発言の機会を持ち、語彙や会話ストラテジーを学び、リスニング練習も行う。継続的な練習によって表現力と理解力を伸ばし、履修後には自分の英語力にもっと自信を持てるようになる。			○	◎		○		
88	外国語科目群	English for Specific Purposes A	2	選択					English for Specific Purposes Aは、学生が少人数の前で自分の考えや意見を明確に、また分かりやすく伝える力を育てることを目的とする。友人や思い出の場所、大切な持ち物など身近で日常的なトピックを扱いながら、語彙や表現、文章の組み立て方を学び、プレゼンテーションやレポート課題を通して実践的な力を身につけます。			○	◎		○		

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8
- 文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8
88	外国語科目群	English for Specific Purposes B	2	選択					English for Specific Purposes Bは、English for Specific Purposes Aの内容を踏まえ、学生が少人数の前で自分の考えや意見を明確で分かりやすく伝える力をさらに伸ばすことを目的とします。印象的な経験、手順の説明、物語を語るといったトピックを扱いながら、語彙や表現、文章の組み立て方を学び、発表やレポート課題を通して実践的な力を身につけます。			○	◎			○	
90	外国語科目群	English for Advanced Studies A	2	選択					English for Advanced Studies Aは、リスニングとディスカッションを中心とした総合的なスキル科目です。心理学、ビジネス、メディア研究といったテーマを単元ごとに学び、語彙や知識を広げながら講義や討論に参加します。ノートテイキングの技術や英語講義・討論で用いられる構成や表現を理解し、実際に練習します。評価は発表、参加態度、筆記クイズ、レポート提出などを通して行われます。			○	◎			○	
91	外国語科目群	English for Advanced Studies B	2	選択					English for Advanced Studies Bは、English for Advanced Studies Aの内容をふまえたリスニングとディスカッション中心の科目です。メディア研究、科学、人文科学を扱い、語彙や知識を広げながら講義や討論に参加します。リスニング戦略、ノートテイキングを練習し、英語講義の構成や表現を学びます。評価は発表、参加態度、筆記クイズや試験を通して行われます。			○	◎			○	
92	外国語科目群	TOEIC Preparation A	2	選択					この科目は、担当教員がTOEICテストの各セクションを解説し、受験時に役立つ様々な戦略を指導するものである。よく出される問題や一般的な文法事項についても説明する。TOEICの模擬テストを定期的に実施し、頻出する文法に慣れ親しむとともに、TOEICテストに应用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。			○	◎			○	
93	外国語科目群	TOEIC Preparation B	2	選択					この科目では、担当教員がTOEICテストの各セクションを解説し、受験をする時に役立つ様々な対策を指導する。頻出する問題や一般的な文法事項についても説明する。TOEICの模擬テストを定期的に実施して、頻出する文法に慣れ親しむとともに、TOEICテストに应用可能なリスニングの方法を身につけて網羅することを目指している。			○	◎			○	
94	外国語科目群	TOEIC Preparation C	2	選択					この科目は、学生のTOEIC総合スコア向上を目的としている。TOEICの模擬テストを定期的に実施して、頻出する文法・語彙に慣れ親しむとともに、TOEIC試験に应用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。毎回、オンデマンド教材を配信するので、学生は教科書とオンデマンド教材に基づいて、課題とテストを完了する。通常回のミニテスト、語彙テストのほか、期末試験も予定している。			○	◎			○	
95	外国語科目群	TOEIC Preparation D	2	選択					この科目は、学生のTOEIC総合スコア向上を目的としている。TOEICの模擬テストを定期的に実施して、頻出する文法・語彙に慣れ親しむとともに、TOEIC試験に应用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。毎回、オンデマンド教材を配信するので、学生は教科書とオンデマンド教材に基づいて、課題とテストを完了する。通常回のミニテスト、語彙テストのほか、期末試験も予定している。			○	◎			○	
96	外国語科目群	Basic Writing Skills I	2	選択					Basic Writing Skills Iでは、文構造、パラグラフ展開、ライティング・プロセスといった基礎的なスキルを学ぶ。授業ではテーマに沿った語彙や基本文法を学び、文のつながりや一貫性を意識した練習を行い、短い段落ライティングやインククラス課題に取り組む。学期中に作成した課題はポートフォリオにまとめ、学期末に提出する。			○	◎			○	
97	外国語科目群	Basic Writing Skills II	2	選択					Basic Writing Skills IIは、Basic Writing Skills Iで学んだ基礎をふまえ、複数のパラグラフからなる文章を書く力を養う。授業ではテーマに沿った語彙や文法を学び、十分に根拠を示した段落を作成し、文章全体の構成や流れを意識しながら、より長くまとまりのあるライティングに取り組む。学期中に作成した課題はポートフォリオにまとめ、学期末に提出する。			○	◎			○	
98	外国語科目群	Intermediate Practical Discussion Skills I	2	選択					基礎で学んだ力を踏まえ、中級レベルの学生がスピーキング・会話・ディスカッション能力をさらに高めることを目的とする。SDGsに関連するテーマを扱い、関連語彙や会話ストラテジーを学びながら英語での意見交換を行う。ペアや少人数グループでのやり取りを通して継続的に発話を練習し、流暢さ、表現力と理解力を伸ばす。履修後にはスピーキング、ディスカッション、リスニングに一層の自信を持てるようになる。			○	◎			○	
99	外国語科目群	Intermediate Practical Discussion Skills II	2	選択					Intermediate Practical Discussion Skills IIは、前科目をふまえた中級レベルの科目であり、SDGsに関するテーマを中心にスピーキング・ディスカッション力をさらに伸ばすことを目的とする。会話の流暢さやストラテジーを学び、有用な語彙を増やしながら実践力を高める。ペアや少人数グループで練習し、履修後にはディスカッションとリスニングに自信を持てるようになる。			○	◎				
100	外国語科目群	Intermediate Writing Skills I	2	選択					Intermediate Writing Skills IではBasic Writing Skills I・IIで身につけた知識とスキルを基盤とし、幅広く刺激的なトピックを通してライティング力を伸ばす。複数のパラグラフをまとめて書き上げ、自分のアイデアと創造性を反映させながら、パラグラフ・ライティングの原則とプロセスを学ぶ。学期中に作成した文章はポートフォリオとしてまとめ、学期末に提出する。			○	◎			○	
101	外国語科目群	Intermediate Writing Skills II	2	選択					Intermediate Writing Skills IIは、前科目で培ったライティング力をさらに発展させる継続科目とする。学生はより幅広いトピックに取り組み、複数のパラグラフを統合してまとまりのあるテキストを作成し、構成やつながりを工夫しながら自分の考えを論理的かつ創造的に表現する。学期中に書きためた文章をポートフォリオに整理し、最終課題として提出する。			○	◎			○	
102	外国語科目群	Intermediate Reading Skills I	2	選択					この科目では、雑誌や新聞のテキストを読み、関心の高い問題を探究し、読み物の内容やトピックに関連するディスカッション活動に参加する。それにより、英語の語彙を増やし、単語の部分とその意味を認識できるようにし、段落構造の理解を深め、文脈の中で意味をより適切に推測する。その方法を示すことにより、読解力を向上させる。			○	◎			○	
103	外国語科目群	Intermediate Reading Skills II	2	選択					この科目では、雑誌や新聞のテキストを読み、関心の高い問題を探究し、読み物の内容やトピックに関連するディスカッション活動に参加する。それにより、英語の語彙を増やし、単語の部分とその意味を認識できるようにし、段落構造の理解を深め、文脈の中で意味をより適切に推測する。その方法を示すことにより、読解力を向上させる。			○	◎			○	
104	外国語科目群	Advanced Discussion Skills	1	選択					Advanced Discussion Skillsは、国際的視点からコートピアおよびディストピア文学を扱い、その重要な概念やテーマを特定し、日本および世界にどのようなように反映されているかを考察する。学生は授業や課題文献を通じて、提示された問題について批判的に思考し、積極的議論し、明確に文章化する能力を養う。			○	◎			○	
105	外国語科目群	Advanced Reading Skills	1	選択					英語をより深く読む方法と、英語のテキストをより効果的に理解する方法を身につけるために、さまざまな種類の読書タスクを課し、読書の経験や提案を共有させたり、その内容を批判させたりするとともに、新たに獲得したリーディングのスキルおよびストラテジースキルと戦略をどのように使用するかについて、ライティングならびにディスカッションさせる。			○	◎			○	
106	外国語科目群	Spoken Business English	2	選択					Spoken Business Englishの主な目的は、学習者に実用的なコミュニケーション能力を身につけさせることである。特に職場で英語を使用する必要がある人を対象とし、日常的および実務的な目的に応じた表現や語彙に重点を置く。多様な場面で適切かつ効果的に意思疎通を行える力を育成することを旨とする。			○	◎			○	
107	外国語科目群	Oral Fluency III	2	選択					スピーキング・スキルとクリティカル・シンキング・スキルを向上させるために、重要な社会問題に関する文章を読み聞かし、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどのアクティビティに参加する。それにより、その問題の専門用語や基礎知識を獲得しつつ、それに関する人々の意見とその理由を特定する訓練を行う。			○	◎			○	

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1
DP2
DP3
DP4
DP5
DP6
DP7
DP8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
108	外国語科目群	Oral Fluency IV	2	選択					スピーキング・スキルとクリティカル・シンキング・スキルを向上させるために、重要な社会問題に関する文章を読み聞かし、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどのアクティビティに参加する。それにより、その問題の専門用語や基礎知識を獲得しつつ、それに関する人々の意見とその理由を特定する訓練を行う。			○	◎			○	
109	外国語科目群	Topics for Cross-cultural Communication: Global Issues A	1	選択					Intercultural Communicationは、英語のみで行われ、多くの留学生が参加する多文化的な授業とする。異文化コミュニケーション研究の意義、文化とコミュニケーションの定義、言語的・非言語的課題を扱う。理論の学習に加え、指定文献、クラス内でのディスカッションや多様な活動を通して、心理学的および社会学的要因を考察し、異文化理解、批判的思考、学問への関心を深める。				○	◎		○	
110	外国語科目群	Topics for Cross-cultural Communication: Global Issues B	1	選択					文化・文脈・コミュニケーションと権力の基礎をふり返る。In英語のみで行われ、多くの留学生が参加する多文化的な授業とする。文化・文脈・コミュニケーションと権力の基礎を振り返る。その上で、異文化間移行、異文化間関係、コンフリクトマネジメントと解決、平和構築といった課題を扱い、理論の検討に加え、文脈読解やクラス内のディスカッションと多様な活動を通して知識と理解を深め、批判的思考と実践力を養う。				○	◎		○	
111	外国語科目群	中国語I	2	選択					初學者を対象とし、中国語の基本的な発音、語彙、文法項目、会話、練習問題等に取り組む。中国語の発音（ピンイン）と表記を重点的に学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力を養う。毎回の授業で繰り返し発音練習を行い、基礎文法に関する理解を深め、会話練習を重ねることで、正確な発音と基礎的な表現力を着実に身につける。				○	◎		○	
112	外国語科目群	中国語II	2	選択					中国語Iを履修した学生を対象とし、中国語の発音、語彙、文法項目、会話、練習問題を通して学習を深める。基礎的な中国語の文法を学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力をより強固にすることを目指す。さらに日常生活において頻出する会話表現を積極的に取り入れ、実践的なコミュニケーション能力を養成する。また、中国語検定試験対策の指導を行う。				○	◎		○	
113	外国語科目群	中国語III	2	選択					中国語IIを履修した学生を対象とする。中国語I・IIで習得した基礎的な単語や文法知識を復習しながら、新しい表現を徐々にに加え、日常生活に頻出する会話表現を繰り返し練習することによって、効率よく中国語の運用力、コミュニケーション力を向上させることを目標とする。授業終了時点で中国語検定準Ⅲ級あるいは4級の受験レベルに到達することを目指す。				○	◎		○	
114	外国語科目群	中国語IV	2	選択					中国語IIIを履修した学生を対象とする。これまでに習得した語彙や文法を復習しつつ、新しい表現や文型を段階的に学び、日常生活や学習・仕事の場面で実際に中国語を運用できる会話力を伸ばすことを目標とする。実践的な会話練習やロールプレイ、リスニング活動に加え、簡単な作文の練習も取り入れ、聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく向上させる。				○	◎		○	
115	外国語科目群	韓国語I	2	選択					ハンガルの仕組みや基礎的な文法事項を理解し、自己紹介や挨拶表現、趣味や居場所など身近な話題について、簡単な会話や短い作文を行う力を養う。授業では繰り返し練習を通して発音や表現に慣れ、基礎的なコミュニケーション能力を培うことを目標とする。				○	◎		○	
116	外国語科目群	韓国語II	2	選択					「韓国語I」を履修した学生を対象とし、ここで学んだ内容を確実に復習した上で、さらに多様な表現や文法事項を習得する。授業では実際の会話練習や文章作成を通じて運用力を高め、より幅広い場面において適切にコミュニケーションを行える基礎を築くことを目標とする。				○	◎		○	
117	外国語科目群	韓国語III	2	選択					「韓国語I」「韓国語II」で学んだ内容を復習しつつ活用力を高め、基本語彙と文法をより豊かに使いこなすことを目指す。授業では多様な場面での会話や作文を通じて表現力を伸ばし、韓国語で自己実現を図る力を養う。また、ハンガム能力検定4級以上の合格を一つの目標として学習を進める。				○	◎		○	
118	外国語科目群	韓国語IV	2	選択					ハンガム能力検定3級またはTOPIK3級以上の合格を一つの目標とし、中級レベルの韓国語能力を養成する。授業では身近な話題について支障なく会話や作文を行う力を確実にし、その上でより複雑な社会的場面にも対応できる表現力を育てる。さらに辞書を用いながら新聞記事や文学作品を読解し、ニュース番組を理解する力を培うことを目指す。				○	◎		○	
119	外国語科目群	韓国語V	2	選択					これまでに学んだ韓国語の表現や文法を理解し自在に活用するとともに、より複雑な構文や多様な表現を習得し、自然で正確な韓国語運用を目指す。授業では日常的な会話に加え、難しいテーマについても意見を述べたり議論できる力を養う。さらに新聞記事や雑誌、書籍など長文を読み、内容や筆者の意図を理解する読解力を高める。ハンガム能力検定2級以上の合格を目標とする。				○	◎		○	
120	外国語科目群	韓国語VI	2	選択					韓国語の高度な表現や文法につけ、社会・文化・時事問題など専門的なテーマについても適切に議論し、自らの考えを論理的に表現できる力を養う。授業では新聞や学術的な文章、映像資料などを用いて高度な読解力と聴解力を鍛えるとともに、正確かつ流暢な作文力を伸ばす。最終的にはTOPIK4級以上、またはハンガム能力検定準1級以上の合格を一つの目標とする。				○	◎		○	
121	外国語科目群	ドイツ語I	2	選択					この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（文タイプと動詞の位置・否定文・平叙文・疑問文・人称代名詞・動詞の現在人称変化・sein, haben・名詞の性・名詞格変化・人称代名詞格変化）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。				○	◎		○	
122	外国語科目群	ドイツ語II	2	選択					この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（動詞の規則変化・名詞の格変化・代名詞の格変化の復習に続き、不規則動詞の現在人称変化・名詞の複数形・否定冠詞・名詞の2格、3格）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。				○	◎		○	
123	外国語科目群	ドイツ語III	2	選択					この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（zu不定句、形容詞の原級・比較級、最上級、動詞の3基本形、過去形、現在完了）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせてドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深める。				○	◎		○	
124	外国語科目群	ドイツ語IV	2	選択					この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（zu不定句、形容詞の原級・比較級、最上級、動詞の3基本形、過去形、現在完了）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深める。				○	◎		○	
125	外国語科目群	フランス語I	2	選択					この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象としている。基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけではなく使えるフランス語を習得する。				○	◎		○	
126	外国語科目群	フランス語II	2	選択					本科目はフランス語Iを修得した学生ののみ履修できる。基本的なフランス語力をさらに広げ、深める意欲を持った学生のためのコースである。引き続き、基本的な語彙と文法を習得することを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を引き続き養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけではなく使えるフランス語を習得する。				○	◎		○	
127	外国語科目群	フランス語III	2	選択					フランス語の発話・作文能力を個人的な出来事以外のことも表現できるレベルにまで向上させるとともに、フランス語における時制のニュアンスを事実、予測、可能性の観点から認識させ、フランス語における批判的思考の重要性を理解させる。合わせて、フランスの歴史、フランス人のライフスタイル、習慣、生き方を理解し、自国の文化と比較できるようにさせる。				○	◎		○	

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8
128	外国語科目群	フランス語Ⅳ	2	選択					フランス語の発話・作文能力を個人的な出来事以外のことも表現できるレベルにまで向上させるとともに、フランス語における時制のニュアンスを事実、予測、可能性の観点から認識させ、フランス語における批判的思考の重要性を理解させる。合わせて、フランスの歴史、フランス人のライフスタイル、習慣、生き方を理解し、自国の文化と比較できるようにさせる。			○	◎			○	
129	外国語科目群	スペイン語Ⅰ	2	選択					This is an introduction to Spanish language fundamentals. Students learn basic vocabulary, present tense verbs, and essential grammar structures. Focus on simple conversations, greetings, family, numbers, and daily activities. No prior Spanish knowledge required. Prepares foundation for continued study.				○	◎		○	
130	外国語科目群	スペイン語Ⅱ	2	選択					This builds upon Spanish I foundations. Students expand vocabulary and learn irregular verb conjugations in the present tense. Emphasis on pronunciation and basic listening comprehension. Increased emphasis on speaking and listening skills through interactive exercises and basic conversations about familiar topics.				○	◎		○	
131	外国語科目群	スペイン語Ⅲ	2	選択					This develops lower-intermediate communication skills. Students improve their ability with verb conjugation, and expanded vocabulary covers education, work, health, and social issues. Introduction to reading comprehension with authentic materials. Prepares students for more nuanced language proficiency and cultural understanding.			○	◎			○	
132	外国語科目群	スペイン語Ⅳ	2	選択					Comprehensive preparation for DELE A1 certification and study abroad readiness. Intensive practice in all four skills: speaking, listening, reading, writing. Covers cultural competency, practical communication for travel and daily life in Spanish-speaking countries. Meets CEFR A1 descriptors for basic proficiency.				○	◎		○	
133	外国語科目群	ハンガリー語Ⅰ	2	選択					初めてハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語力だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージジャーワ」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。				○	◎		○	
134	外国語科目群	ハンガリー語Ⅱ	2	選択					「ハンガリー語」に続きハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語力だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージジャーワ」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。				○	◎		○	
135	外国語科目群	ハンガリー語Ⅲ	2	選択					インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。				○	◎		○	
136	外国語科目群	ハンガリー語Ⅳ	2	選択					インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。				○	◎		○	
137	外国語科目群	ポーランド語Ⅰ	2	選択					本科目は2時間連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。				○	◎		○	
138	外国語科目群	ポーランド語Ⅱ	2	選択					本科目は2時間連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのヴィジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。				○	◎		○	
139	外国語科目群	ポーランド語Ⅲ	2	選択					初級文法を復習しながら中級の学習を進める。特に会話能力と聞き取りに力を注ぐ。ポーランド人一家の日常を描いている“Uczmy sie polskiego”の文法を解説し、実用的表現を身につける。簡単な受け答えだけではなく、自分の意見や考えを伝えられるようにする。視聴覚教材も用いる。そのなかで表現される歴史的状況、ものの考え方や文化的な局面を解説し、ポーランドという国の理解を深めていく。				○	◎		○	
140	外国語科目群	ポーランド語Ⅳ	2	選択					ポーランド語という言語の入門的授業として、ポーランド語の文法の基礎を学ぶ。文法だけに集中せず、発音にも細心の注意を払い、日常会話でよく使われる表現を身につける。自己紹介や自分の家族について話せる表現を使えるようにする。そのなかで年齢、職業、趣味に関する表現を覚える。普段の生活に必要な不可欠な数字も早い段階で修得する。交通、病院、レストランや買い物など簡単な実用的な会話表現をマスターする。				○	◎		○	
141	外国語科目群	チェコ語Ⅰ	2	選択					チェコ語のアルファベット、発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する・話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。				○	◎		○	
142	外国語科目群	チェコ語Ⅱ	2	選択					正しい発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する・話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。				○	◎		○	
143	外国語科目群	チェコ語Ⅲ	2	選択					今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることにも努める。徐々に読解力も身に付ける。チェコ人と日常会話ができるよう、チェコ語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。また、視聴覚教材を使いながら、チェコの文化、音楽、アニメ等について学び、さらにチェコについての知識も深める。				○	◎		○	
144	外国語科目群	チェコ語Ⅳ	2	選択					これまでに習得した文法を使用し、簡単な文章を練習する。さらに語彙を広げ、日常表現を覚え、会話を練習し、会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習をし、理解する・話す力を少しずつ身につけることが本授業の目標である。終了時に簡単な会話ができるように授業を進める。また、授業では視聴覚教材を使いながら、チェコの文化、音楽、アニメ等について学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。				○	◎		○	

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
145	外国語科目群	日本語I	2	選択					この授業は、日本文化や社会への理解を深めながら、日本語による実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。日常生活やニュースなどを題材に、生の日本語を読み、聞き、話し、書く活動を通じて、各回のCan-do目標を達成する。すべてのCan-doを達成することで、留学生生活をより充実させる力を身につける。			○	◎			○	
146	外国語科目群	日本語II	2	選択					この授業は「日本語I」に続き、日本での留学生活に必要な日本文化や社会への理解をさらに深めながら、日本語の実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。初対面、食文化、音楽、旅行などの社会文化をテーマに、生の日本語を使って4技能を向上させる活動を行い、各回のCan-do目標の達成を目指す。特に話す力（会話・独話）の向上に重点を置き、自分の意思や考えを説明し、その理由を述べる力を育てる。			○	◎			○	
147	外国語科目群	日本語III	2	選択					この授業は、日本語の運用能力が上級程度の学生を対象とし、「日本語I」に続き、学部科目につながる日本語力の向上を目的とする。読む・聞く・書く・話すの4技能を通じて、文法・読解・聴解・語彙・文字を総合的に学び、学んだ知識を自分の言葉でまとめ、意見を述べる力を養う。特に話す力とディスカッション力の向上に重点を置き、ペアやグループでの活動を通じて双方向の理解を深め、思考力と表現力を高める。			○	◎			○	
148	外国語科目群	統合日本語I	2	選択					この授業では、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。			○	◎			○	
149	外国語科目群	統合日本語II	2	選択					この授業では、「統合日本語I」に続き、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。			○	◎			○	
150	外国語科目群	統合日本語III	2	選択					この授業は、「統合日本語II」に続き、日本語の運用能力が上級程度の学生を対象とし、内容を通じて4技能（読む・聞く・書く・話す）を統合的に高めることを目的とする。SDGsや日本文化などを題材に、言語知識を自分の言葉でまとめ、意見を述べる力を養う。ペアやグループでの活動を通じて双方向の理解を深め、批判的に考える力を育てる。探索的な学びを重視し、発表や議論を通じて思考を深め、学びの成果をまとめる。			○	◎			○	
151	外国語科目群	専門日本語(ホテル・観光)	2	選択					この授業は、将来接客業に携わりたい学生を対象とし、ホテル・観光業における接客コミュニケーション、マナー、非言語行動を学ぶ。空港や観光名所などの場面を想定し、観光ガイドが使う日本語表現を習得する。学習者は観光情報を自ら調べ、整理し、自分の言葉で簡潔に述べたり議論したりする中で、専門語彙や表現力を身につける。日本のおもてなしを理解し、実践できる力を養うことを目標とする。			○	◎			○	
152	外国語科目群	専門日本語(異文化コミュニケーション)	2	選択					この授業は、文化背景の異なる人々とのコミュニケーションについて学び、異文化理解に必要な態度や心構えを養うことを目的とする。異文化コミュニケーションの理論とエクササイズを通じて、自文化と他文化に関する情報を学び、自己気づきを深める。ディスカッションや活動を通して、開かれた心と積極的な参加姿勢を育てる。文化やコミュニケーションの過程を問い直しながら、日本語の4技能も高める。			○	◎				
153	外国語科目群	ビジネス日本語I	2	選択					この授業は、日本の企業文化への理解と、ビジネス場面で求められる日本語コミュニケーション力の向上を目的とする。敬意表現や依頼・謝罪、断りなどの機能表現、会話文、前置き表現、語彙、文書の読み書きを含む4技能を総合的に学ぶ。ケーススタディやディスカッションを通じて、発話力・表現力を高め、論理的に意見を述べる力を養う。実践的な活動を重視し、積極的な参加が求められる。			○	◎			○	
154	外国語科目群	ビジネス日本語II	2	選択					この授業は、「ビジネス日本語I」で培った基礎力をもとに、グローバル人材として活躍するための知識と技法を実践的に身につける。将来、日本企業や海外の日系企業への就職を希望する学生が、ビジネスの現場で適用する日本語能力、社会人基礎力、異文化調整能力を総合的に修得する。アポイント取得、会議参加、クレーム対応、交渉などの場面を扱い、語彙・敬意表現を学ぶ。協働活動を通じて企業文化の理解と実践力を高める。			○	◎			○	
155	外国語科目群	キャリア日本語(就職)	2	選択					この授業は、将来日本で働くことを希望する学生を対象とし、社会人として必要な日本語コミュニケーション力と社会人基礎力を養うことを目的とする。会社内の会話文やケーススタディを通じてビジネス場面での対応力を高め、履歴書や面接、企業分析など就職活動に必要な日本語表現を学ぶ。毎回のスピーチやディスカッション、プレゼンテーションを通じて、自分の考えを論理的に伝える力と協働的に学び合う姿勢を育てる。			○	◎			○	
156	外国語科目群	キャリア日本語(進学)	2	選択					この授業は、学部卒業後、大学院進学を希望する留学生を中心とした学生を対象に、小論文やレポート、論文の書き方を体系的に習得するためのクラスである。論文にふさわしい用語の使い方、文献の引用方法などについて具体的に学ぶ。学生は自分の研究テーマについて文献を収集・購読し、最後に卒業論文や卒業研究の簡単なプレゼンテーションができるようになる。			○	◎			○	
157	外国語科目群	日本語アカデミック・ライティング	2	選択					この授業は、アカデミックなライティング力を養うことを目的とする。日本の大学における一般的な日本語のレポートの書き方を学びながら、テーマについて考え、それをレポートにまとめる練習を行う。まず自分の関心に合わせてテーマを選び、必要な調査を行い、調べたことをもとに考察し、1つのレポートを完成させる。大学のレポートに求められる論理の立て方、資料の集め方、引用の方法も学ぶ。			○	◎			○	
158	外国語科目群	日本語アカデミック・スピーキング	2	選択					この授業は、大学で求められるアカデミックなスピーキング力を養うことを目的とする。自分の考えをスライドを用いて口頭で発表する力を身につけるため、発表テーマの設定、考察や結論の構成、スライドと原稿の作成、発表時の話し方までを段階的に学ぶ。授業では、発表準備と練習を重ねながら、論理的に伝える力と表現力を高める。大学生として必要な発信力を育成し、主体的に意見を述べる力を養う。			○	◎			○	
159	外国語科目群	社会と文化の日本語A	2	選択					この授業は、社会や文化に関する題材を通じて日本語の運用力を高めることを目的とする。新聞や雑誌の記事を精読・速読し、語彙や文法を習得しながら社会的テーマを理解する。映像作品や漫画を用いた議論や発表で表現力を養い、科学技術に関する情報を扱うことで論理的に説明する力を育成する。読解・議論・論文作成を柱とし、4技能を総合的に伸ばすことを目標とする。			○	◎				
160	外国語科目群	社会と文化の日本語B	2	選択					この授業は、日本の社会や文化に関する映像や動画を題材に、日本語の運用能力を高めることを目的とする。授業では、映像作品から表現や語彙を学び、ペアワークやグループワークを通じて議論や発表を行う。批判的思考力や問題解決能力を鍛え、他者の意見を理解しながら自分の考えを伝える力も養う。これらの活動を通じて、社会や文化を理解しつつ積極的にコミュニケーションを取れる日本語力を身につけることを目標とする。			○	◎			○	

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1
DP2
DP3
DP4
DP5
DP6
DP7
DP8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
161	外国語科目群	日本語(言語知識)	2	自由					この授業は、日本語能力試験N1合格を目指す上級者向けの試験対策科目である。文字・語彙・文法に関する知識を習得し、毎回の小テストを通じて定着を図る。問題解答の方略やストラテジーを学び、高得点での合格を目指す。また、学んだ知識を活用し、文章を読んだり書いたり話したりする力を養うことで、学部での学びにも応用できる運用力を身につける。試験対策と実践力の両面から日本語力を高めることを目的とする。			○		◎		○	
162	外国語科目群	日本語(読解・聴解)	2	自由					この授業は、日本語能力試験N1合格を目指す上級者向けの試験対策科目である。読解・聴解に関する問題の解答方略やストラテジーを学び、高得点での合格を目指す。また、学んだ知識を活用し、文章を読んだり書いたり話したりする力を養うことで、学部での学びにも応用できる運用力を高める。試験対策と実践力の両面から、日本語力を総合的に伸ばすことを目的とする。			○		◎		○	
163	外国語科目群	日本語A	2	自由					この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。文法・読解・聴解・文字・語彙を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。特に口頭産出に重点を置き、話す力の向上を目的とする。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく習得し、学んだ知識を実際に使える力へとつなげる。発表やディスカッションを通じて、表現力と運用力を高める。			○		◎		○	
164	外国語科目群	日本語B	2	自由					この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。文法・読解・聴解・文字・語彙を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。特に文法に重点を置き、話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく習得する。様々なテーマを通じて、自分の考えを形成し、仲間との対話やふり返りを通して表現力を高める。発表やディスカッションも行い、実践的な運用力を養う。			○		◎		○	
165	外国語科目群	日本語C	2	自由					この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に文法・語彙に重点を置き、話す・読む・書く・聞くの4技能を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。N1へのステップアップも視野に入れる。学んだ知識を活用し、発表やディスカッションを通じて表現力を高め、意見をレポートにまとめる力を養う。			○		◎		○	
166	外国語科目群	日本語D	2	自由					この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に聴解に重点を置き、自然なスピードの会話やニュースを聞き、話の流れや要旨、登場人物の関係を理解する力を養う。聴解を中心に4技能を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。学んだ知識を活用して発表やディスカッションを行い、最終的に自分の意見をレポートにまとめることで、実践的な運用力を高める。			○		◎		○	
167	外国語科目群	日本語E	2	自由					この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に読解に重点を置き、文章の構造や要点を的確に把握する力を養う。文法・読解・文字・語彙も含めて総合的に学び、日本語力の底上げを図る。4技能をバランスよく習得し、知識を実際に使える力へとつなげる。学んだ内容を活用して発表やディスカッションを行い、最終的に自分の意見をレポートにまとめる。			○		◎		○	
168	キャリア形成科目群	基礎演習A	1	必修		○			高等学校から大学への円滑な移行を目的に、大学での学習に必要な基礎的スキルを習得する。自己表現や口頭発表に関する知識・技法を講義で学び、グループワークや実践を通して活用力や協働性を養う。また、将来の目標設定やキャリア形成について学び、自らの大学生活を主体的に設計・展開する力を培う。さらに、先輩学生による留学報告会によって国際的視野を広げる。					○	◎		○
169	キャリア形成科目群	基礎演習B	2	必修		○			大学での学習に必要な基礎的スキルの中でも特に文章作成や調査方法、著作権に関する知識、技法を講義で学び、各自の課題に沿って実践する。また、就職情報提供機関による説明会により就職活動の概要を把握し、関心のある業界について調べる。さらに、先輩学生による就職活動報告会を参考に、就職活動を踏まえた学びをデザインする。					○	◎		○
170	キャリア形成科目群	基礎演習C	2	必修		○			3年次以降の演習に参加するための準備として、基礎的な知識や技法を習得することを目的とする。3年次以降の国際文化演習（ゼミ）は、学生同士の討論が中心となり、受講者には独自に考察し、発表・討論する能力が求められる。この科目では3年次以降のゼミにスムーズに入っているよう、調査方法や文献の探求方法の習得、プレゼンテーションやプレゼンテーション後の討論の練習を行う。					○	◎		○
171	キャリア形成科目群	キャリア形成演習	2	選択					キャリア形成のための主体的・自律的な学びを実現できるように、必要な基礎知識を修得するとともに、必要な情報を適切な方法で収集および活用し、柔軟な思考力や判断力をもって行動する力を養うことを目標とする。この授業の履修を通じて、卒業後の進路について具体的な目標を設定し、計画的に就職活動を進められるよう、前半は就職活動における最小限のトレーニング、後半はSPI問題集の取り組み等を予定している。						○	◎	
172	キャリア形成科目群	ビジネス入門	2	選択					本講義の目的は、主に営利企業を中心として、ビジネス社会の仕組み、企業の特徴、そこでのビジネスの進め方などを理解することにある。併せて、将来社会人となった場合に不可欠なビジネスの知識も身に付ける。ビジネスの世界への入門講義として、企業経営の基礎を学ぶ。履修生が、理論とケースディスカッションを通じて企業のグローバル展開や事業分析、そしてスタートアップなどに理解と関心を深めることを目指す。						○	○	◎
173	キャリア形成科目群	航空・空港キャリア概論A	2	選択					主にエアラインビジネスの基礎である空港旅客業務やオペレーション業務（運航・整備等）などのフロントラインの仕事を中心にビジュアルな資料、データ、映像などに基き解説する。次いで、航空ビジネスモデル（アライアンス・ネットワーク戦略・顧客戦略など）を通して航空産業の将来やその政策を見通せる基礎力を身进行。								◎
174	キャリア形成科目群	航空・空港キャリア概論B	2	選択					主にエアラインビジネスの基礎である空港旅客業務やオペレーション業務（運航管理・整備等）のフロントラインの仕事を中心にビジュアルな資料にもとづき解説する。幅広いグローバル競争にさらされている航空業界のビジネスモデル（アライアンス、ネットワーク、マイルージ、顧客戦略など）の基礎的知識の理解を深めることと併せて、今後の航空産業や将来の政策を見通せる基礎力を養う。								◎
175	専門基礎科目群	歴史・文化の視点	2	選択					大学での歴史の学びについて、高校までの歴史の授業との違いを意識しながら、求められる基本的な視点を身につけることを目指す。歴史研究の材料である史料の特性など、それらを利用した研究事例を紹介するかなちで授業を進める。また、大学での文化の学びについても、いくつかの研究事例の紹介や授業中の取り組みを通して基本的な理解を出来ることを目指す。	◎		○			○		
176	専門基礎科目群	異文化理解	2	選択	○				多文化、多言語、多民族社会の在り方、異文化間接触に関する様々な課題について学び、異文化を理解する知識と方法を身につけることを目標とする。さらに、昨年から外国人労働者の受け入れを容易にした日本において、多民族多言語多文化社会に家脱しつつあり、ホスト社会とマイノリティ・ディアスポラの関係のあり方について理解することをも目標とする。この講義では、日本や他の世界の文化を例に挙げながら、異文化理解に必要な心構えを学ぶ。	◎		○				○	○
177	専門基礎科目群	世界の中の日本	2	選択					社会を構成するさまざまな要素と、日本の現代文化や社会がどのように一般的にステレオタイプ化されているかを考察する。さらに、教育制度や法制度を含む社会制度を詳しく見ていき、それらが存在する社会からどのような影響を受け、また社会の発展に大きな影響を与えるのかを検討する。最後に、グローバル化が生活のあらゆる側面に及ぶ中で、すべての社会が直面する今後の課題について考える。	○	◎	○					○

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1
DP2
DP3
DP4
DP5
DP6
DP7
DP8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
178	専門基礎科目群	比較文化概論	2	選択	○				この授業では、「文化」がどのように定義、あるいは解釈されてきたかを近代と現代の異同を通して考える。人の移動が増加しグローバル化が進行する近現代世界において、西洋思想・文化との比較を通して生成・定義されてきた日本文化の姿を学び、文化がつねに歴史的に構築された複合的な存在であることを理解するのが目標である。	◎	○						
179	専門基礎科目群	文化人類学	2	選択	○	○			最初に、自分たちの日常を振り返り、文化の様々な側面について考察する。次に、異文化社会に属する人々と関わりて相互理解を図る際に見える多様な問題を、文化人類学の理論や知見を用いて分析する。最後に、そのような関係構築・相互理解の方法として、民族的調査法を用いたフィールドワークの可能性を検討する。授業のなかでは、履修者が課題について考え、その生かす機会を多く設ける。	◎						○	
180	専門基礎科目群	言語学概論	2	選択	○				まずコミュニケーションの場面から言語の記号としての性質と、言語の諸側面を考える。その後、音声学と音韻論では、言語音の作り方と分類を中心に学ぶ。文法では、人称や時制、態など主文法形式を扱う。意味論では、意味論の入門として、意味関係と多義語、類義語を実例から検討する。そしてコミュニケーションにおける言葉の機能と発話行為、発話の意味について考える。	◎							
181	専門基礎科目群	日本文学概論	2	選択	○				日本文学について、その様々な時代、領域を概観し、日本文学について、その時代区分や代表作など、一般教養的な知識を身に付けることを目標とする。また、各時代について、いくつかの作品を取り上げて概観し、鑑賞するためのポイントを紹介することを通じて、文学作品を楽しむ、文学作品に親しむ機会としたい。時代区分を追いながら考察をすすめ、作品や代表的な論評など必要に応じて適宜論評する。	○	◎	○					
182	専門基礎科目群	視覚文化論	2	選択					この科目の目標は、視覚文化に関する基礎知識を身につけ、専門性の基礎となる能力を養うことである。学習テーマは、「『視覚文化』とは何かを知る」である。西洋を中心とした平面芸術の技法について、絵画、版画、印刷、写真、映画の原理と技法を知る。次いで視覚心理学的な「ものの見え方」について理解し、平面芸術における空間表現について、平面および立体芸術における時間表現について、その歴史・原理・展開を見る。	◎							
183	専門基礎科目群	社会学入門	2	選択	○				この科目では、社会学の基礎的な考え方に加えて、現在の日本の家族や地域、情報化や社会階層等の動向を理解することを通じて、クリティカルな態度をもって社会を分析する力を養うことを目的とする。はじめに、世界が近代化するなかで誕生し展開した社会学の歴史、代表的な考え方を説明する。次いで、日本の社会における家族や地域、高齢化、情報化、社会階層と福祉国家論等についての社会的な考え方を説明する。	◎							
184	専門基礎科目群	日本の歴史A	2	選択	○				日本の古代から近世までを概観し、各時代において重要と思われるテーマごとに概説する。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。歴史学においては史料を読み解くことが非常に重要になる。この講義では前近代の日本の歴史について概説するが、その際に、授業のなかで適宜歴史を語る史料も紹介する。	○	◎	○					
185	専門基礎科目群	日本の歴史B	2	選択	○				日本の近現代史の展開について、明治維新から平成までを概観する。様々な視点からの概観が可能だが、この講義では政治史を中心に概説する。適宜、文化や思想の歴史にも触れる。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。歴史学では史料を読み解くことが重要になる。本講義では近現代の日本史を概説するが、歴史を語る史料も適宜紹介する。	○	◎	○					
186	専門基礎科目群	外国史概説	2	選択	○				この講義では、アジアと世界の現在を理解するために、マカオ・香港というふたつの植民地の歴史的な展開から見た広い意味での東西交流史・東アジア近現代史を世界的な視点から学習する。明治期及び中華民国期のマカオ・香港史を通して近代東アジアにおける植民地の歴史的意義について考究しながら、地球規模の貿易と文化交流の拡大を南アジア史・ヨーロッパ史・南北アメリカ史も視野に入れて講義する。	◎							
187	専門基礎科目群	アメリカ文化概論	2	選択	○				植民地建設から現代まで、アメリカの歴史と文化の基礎を理解し、移民国家アメリカの文化の多様性を学ぶことを目標とする。アメリカ人が文化的基礎知識として学ぶ教養を身に付け、さらに各テーマの発展的内容にも触れ、テーマに関連する文献、映像を通して、幅広くアメリカ文化を理解していく。平易な英語で書かれたテキストにより関心に応じて英語でも理解する。	○		◎					
188	専門基礎科目群	中国概論	2	選択					この科目では、中国の人口、文化、社会、政治や国際関係などの基礎知識を身につけることで、立体的、客観的、等身大の中国を見る力を身につけ、中国に対する理解力、分析力を高めることを目標とする。取り扱う時代範囲は、現代が中心になると思われるが、適宜、近代以前についても扱うことがある。中国という国を理解するための入門講座に位置づけられる科目である。	○		◎					
189	専門基礎科目群	韓国現代文化	2	選択	○				この授業では、韓国に現代文化に対する理解を深め、自身の文化観を構築することを目標とする。学習者自らが文化事象について観察し、分析し、創造したり、他の学生と協働して学習を進める協働、ICTなどを活用して情報を収集したり、発信することも学習の対象となる。韓国現代文化について、事例や文献を考察していきながら、自文化と他文化の比較をし、共通点や類似点、相違点を把握し、その背景にあるものを考察する。	○		◎					
190	専門基礎科目群	日本語概論A	2	選択	○	○			この授業では、日本語学の専門的な知識を身につけることを目的として、日本語の構造に関する領域を幅広く学ぶ。初めに、日本語の系統や「共通語」と「標準語」の概念等を学ぶ。その後、語の形（音声と音韻、アクセントとイントネーション等）、文字と表記（漢字、仮名、ローマ字等の表記法）、意味（語の意味、意味の体系等）について基礎的な概念を学ぶ。		○	○		◎			○
191	専門基礎科目群	日本語概論B	2	選択	○				この授業では、主に日本語教育のための日本語分析について学ぶ。「日本語学概論A」と合わせて、日本語学・日本語教育の専門知識として日本語の構造を幅広く学ぶ。この授業では、日本語教育のために、(1)形態・語彙体系、(2)文法体系、(3)意味体系、(4)語用論の規範を理解し、具体的な例を挙げ説明することができることを到達目標とする。加えて、日本語研究と日本語教育の関係についての理解もはかる。			○	○	◎			○
192	専門科目群I	国際文化入門	2	選択	○				国際文化学とは何かについて、さまざまな視点からのアプローチがされている。本授業はコースの基礎科目として、アクティブ・ラーニングを通して、国際文化学を主体的に学ぶことを目指している。グローバルな社会の動向について理解するためには、まずは自分が置かれた位置を確認する必要がある。多様な主体によって形成されている国際社会において、自分自身も主体的に関わっていることを自覚する必要がある。	◎	○	○					○
193	専門科目群I	現代文化論	2	選択	○	○			この授業では、主に「アニメーション」「ゲーム」そして「食」の3つの文化形態を取り上げる。これらはグローバルな市場において最も需要の高い「現代日本文化」であるが、その発祥は必ずしも日本ではなく、受容のされ方も様々である。戦後日本におけるアニメ、ゲーム、食文化の歴史を学び、国内外における人・モノ・技術の移動とグローバル市場における現代文化の姿を理解するのが目標である。	◎	○						
194	専門科目群I	日本の伝統文化	2	選択	○	○			本科目は、日本の伝統文化とされている事例について史的展開を理解すること、その様式や所作、表象に込められているものや見方考え方を考察すること、文化の継承とそれに伴う課題について考えようとする態度を養うこと、の三点を目標とする。具体的には、衣食住、年中行事、祭り、伝統芸能、伝統工芸、茶道・華道や歌舞伎などを取り上げ、実態調査、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めていく。	○	◎	○					

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8
195	専門科目群I	日本民俗学	2	選択					本科目は、柳田国男が構築した日本民俗学をその全般にわたって基本的な成果を知ることを目指す。日本民俗学は、普通の人々の身近で日常的な生活の中に反復しているものを対象化することである。日本の生活文化は、高度成長期の1960年代以降、大いに変貌を遂げたが、変わらぬものもあるし、日常的な生活に注がれる視線はなお有効なものもある。本授業では、映像資料等も用いながら、日本民俗学の成果について講義する。	○	◎	○					
196	専門科目群I	日本文化論	2	選択		○			「日本人・日本文化論」のなから、文化人類学・社会人類学者の2つの著作、すなわち、ルース・ベネディクト『菊と刀』、中根千枝『タテ社会の人間関係』を取り上げ、そこでの主張や一般に流布されている日本人・日本文化に対するイメージや言説を批判的に検討し、そこから現代の日本社会における「日本（の）文化」について考察する。	○	◎	○					
197	専門科目群I	日本語表現	2	選択					日本語表現に関する基礎的知識を身につけ、意思伝達を正確に行なう能力を養成することを目指す。文章による表現を中心に、意思伝達に伴う困難を十分に理解したうえで、受け手の立場に立って表現できるように、伝達に必要な想像力を養う。最終的には、論理的な文章を構成する能力を獲得することを目指す。日本語表現について、ありがちな表現上の問題を具体的に見つづ、注意すべき基本的な項目を順次学習していく。			○		◎			
198	専門科目群I	日本文学史	2	選択					日本文学について古代から現代までを概観し、時代ごとの特徴を大まかに捉えとるに、代表的な作品や作家について基礎的な知識を身に付ける。文学に関する一般教養を習得すると同時に、日本文学・日本文化を探究するための基礎を作ることを目指す。テキストを用いて日本文学史的展開をみていく。時代別の特徴や代表的な作品についてある程度知識を有している前提で授業を進める。日本史の基礎知識があることが望ましい。	○	◎	○					
199	専門科目群I	日本の文学(古典)	2	選択	○	○			本科目は、日本古典文学を通して日本人の物事の捉え方を理解し、現代との共通点や相違点を考えることができること、日本古典文学が時空を超えてつながり、展開するさまを理解し、自ら発展的に継承する意識をもつことができること、の二点を到達目標とする。作品本文を事前に通読し、授業で内容を理解したうえで表現を吟味する。さらに、ディスカッションや創作などを通して主体的・対話的な学びと批判的な読みを深めていく。	○	◎	○					
200	専門科目群I	日本の文学(近・現代)	2	選択	○				日本の近現代文学について、代表的な作家の作品の読解をすすめつつ、その作家の抱えていた問題、作品及び作家の歴史的社会的環境との関係について考察する。いくつかが断片小説を取り上げ、読解し、作品を読み解く際の注意点、作品の背景を学び、代表的な日本の作家について、また日本の近代についての理解を深めることを目標とする。	○	◎	○					
201	専門科目群I	アメリカ文学概論	2	選択	○	○			アメリカの歴史的背景や文学史を学びながら、いくつかの時代・地域の代表的な作家と作品を取り上げ、多文化・多民族国家アメリカ独自の事象や問題について学び、アメリカについての理解を深める。さらに、原作の英文読解により英語力を高めつつ、グループワークを通して文学作品を解釈する力や批判的思考力、表現力を涵養する。			◎					
202	専門科目群I	アメリカの歴史	2	選択					本講義は、現代アメリカを理解する上で必要なアメリカ史の体系的知識を習得するための科目である。現代史の起点をニューディール体制に求め、そこから今日に至るまでのアメリカ社会の移り変わりを経済・政治・外交面から概観する。それによって、現代アメリカ社会の成り立ちを知り、超大国アメリカが世界的な大転換期を前に多岐面で行き詰まりをみせている背景を理解する機会を提供する。	○		◎					
203	専門科目群I	ラテンアメリカの歴史	2	選択					ラテンアメリカ地域の歴史、文化、社会の形成過程について基本的な知識を身につけることを第一の目標とする。ラテンアメリカの歴史は、現生人類(モンゴロイド)が新大陸に渡ってきた2万年前まで遡る。このような雄大な時間の流れを念頭に、33カ国・13地域からなるラテンアメリカ諸国・地域の歴史について学び、今日のアジアや日本との関係について考え、理解を深めることをも目標としている。	○		◎					
204	専門科目群I	ドイツの社会と文化	2	選択					ドイツに関する基礎的な知識を習得し、履修者が関心を持つドイツの個別のテーマを掘り下げて学習することを課題とする。授業の前半では、講義を通じてドイツの歴史や現代社会の諸相を概観する。テキストを踏まえて出来る限りドイツ社会の多様な側面に触れる。授業の後半では、グループ/個別発表の時間を設けて各自の研究成果を報告する。	○		◎					
205	専門科目群I	中国の歴史	2	選択					本科目では、中国の古代史を中心に学ぶ。歴史の流れおよび各時代の事実を把握できるように、また各時代の特徴が理解できるような力を養うことを目標とする。授業では、伝統的な中国史の時代区分に従って、王朝史を軸に歴史を説明する。各時代の事実について講義するほか、適宜、社会や文化の事柄を比較的な視点を入れて解説する。	○		◎					
206	専門科目群I	日本美術	2	選択					造形を「見る」という行為を体験し、自身のものとすることを目的とした美術鑑賞入門。併せて、古典画に特有な基礎知識の修得を目指す。前半は日本美術の流れを概観する。中世から近世の絵画が描かれたメディアに注目し、造形の生きてきた時代背景と場を考える。後半は現代美術（作家作品、広告等）に取り込まれた古典美術の入口に古典美術の魅力を検証する。それを通して「日本画」「日本的」ということ、視覚文化への問題意識を養う。	○	◎	○					
207	専門科目群I	西洋美術	2	選択	○				西洋美術に関する基礎的知識をつけ、専門性の基礎となる能力を養うために、絵画を中心とした西洋美術について、ルネサンス期から20世紀までの主要な芸術家を取りあげ、その生涯と作品について、下記の計画に従って紹介する。なお、新着のニュースや話題、研究などを紹介するために授業の順序・内容を適宜入れ替えることがある。	○		◎					
208	専門科目群I	国際日本学	2	選択					海外における日本に対する関心と、日本学の大きな流れとをつかむために、最初に、日本に関する情報の量と広がりを見渡す。そのうえで、それぞれの国の歴史的背景や日本との関係、日本学における諸国間の相互関係や相互影響などに注目しつつ、内と外の両方の視点があつてこそ生み出された日本学の研究成果を個別に検討する。	○	◎	○					
209	専門科目群I	文化交流史(日本:アジア)	2	選択	○				日本列島と東アジア・東南アジア地域との文化交流の歴史の大概をテーマとし、歴史学の新しい成果も交えながら、理解することを目指す。文化については狭義の文化だけではなく、政治、経済、および他の手段をもってする政治・経済の継続も含む。世界と日本の社会と文化も含む。古代における日本への文化の伝播、中世から近世にかけての貿易、その後における日本経由のアジア近代化について講義をする。	○	◎	○					
210	専門科目群I	文化交流史(日本:欧米)	2	選択	○				産業革命以降のヨーロッパの経済発展と人口変動に伴う文化交流史をテーマとする。人口変動に関する基礎的な概念や理論を踏まえたうえで、人口変動の背景やその結果としての文化変容について理解を深めることを課題とする。授業では主にテキストに沿ってスライドを用いながら授業を進め、具体的な事例については配布資料を用いながら理解を深める。	○	◎	○					
211	専門科目群I	日本とアジア	2	選択					日本の発展はアジアと密接に関連している。本授業では、まず日本とアジアの関係を歴史的な流れの中で理解する。次に政治制度や経済発展を最近の主要事例を取り上げ、さまざまなメディアやコンテンツ資料を活用しながら比較し、現状を把握する。その過程で情報を批判的に分析・判断する力を養う。さらに東アジアにおける地域統合の可能性や課題を検討し、日本とアジアの未来的な共存共栄を展望することを目標とする。	○	◎	○					

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8
212	専門科目群I	日本と北米	2	選択					20世紀以降の日本関係の歴史を長期的視点にたって理解し、近年の日本関係の動向と展望を政治・経済的側面から説明できるようになることを目指す。現代の日本関係の起点を日米が地域大国として並び立った1920年代に求め、それから今日に至るまでの両国間の政治・経済関係の未歴をたどることによって、日米関係が刻みできた歴史のリズムをとらえ、今後の日本関係をみつめる視座を得る。	○	◎	○					
213	専門科目群I	日本と中南米	2	選択					日本と中南米の歴史的な関係をを中心に据えながら、広くアジア、ラテンアメリカ、ヨーロッパの関係にも目を向け、広大な両地域関係の基本的な知識を身につけることを目標とする。太平洋を挟む両地域の関係史について学ぶが、特に16世紀から19世紀に焦点を当てて講義を行う。最終的には受講者が、近現代過程における領地域の交流史を理解できるようにするのが目標である。	○	◎	○					
214	専門科目群I	日本とヨーロッパ	2	選択					本科目では、ヨーロッパと日本がどのように交流してきたのか、その歴史と現状を学ぶ。江戸時代から現在までの日本とヨーロッパの接点を文化史の観点から考える。また、ソフトパワー、文化外交、文化交流についても学ぶ。V4、ドイツ、スペイン、イタリア等は日本において自国文化と歴史のどの部分、ジャンル、テーマを発信しているか見ていく。文化外交で活用されるテーマ自体（例：絵本、アニメ、文学）について見ていく。	○	◎	○					
215	専門科目群I	日中比較文化	2	選択					一帯一水、同文同種と言われているが、日中間で文化的相違点はかなりあり、相互理解の妨げにもなる場合がある。本授業では、日中文化の相互理解を目的とし、日中比較の視点から、風俗習慣、対人関係、言語行動、国家・社会意識などにおける日中間の違いを検討し、日中間のスムーズな交流のための異文化コミュニケーション能力を高める。	○	◎	○					
216	専門科目群I	多文化社会論	2	選択	○				本科目では、世界の国や諸地域と日本を比較しながら、多文化社会における人々の共生を実現するために何が必要かを歴史的視点から考える。多文化社会に生きる人間としての自覚と態度を養うことが目的である。ネイション、ナショナルイティ、エスニシティ、アイデンティティ等の多文化社会を考えるうえで不可欠な用語や概念を理解した上で、近代以降、今日まで続く国民国家形成への志向がどのような問題を生み出してきたかを検討する。	○						◎	○
217	専門科目群I	International Communication	2	選択					In this course students will be discussing issues related to international understanding and international communication based on the personal experiences and the readings distributed in class.	○		○				◎	
218	専門科目群I	Language Acquisition	2	選択					語学学習および教育について積極的に話し合うとともに、授業計画と模擬授業を通じて英語の教え方を学び実践することによって、外国語がどのように習得されるか、いかにして外国語として英語を教えるかについての知識を向上させ、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの言語スキルを育成させるとともに、さまざまな方法とテクニックを分析して流暢さと正確さを向上させる。	◎		○					
219	専門科目群I	Topics in Culture and Society in Japan	2	選択		○			Although foreigners have studied and analyzed many unique aspects of Japanese culture since the 16th century, it is still difficult for them to understand how the Japanese think and act. This course will explore some of the major Japanese thoughts from the pre-modern as well as modern periods and examine characteristic behaviors of the contemporary Japanese people.	○	◎	○					
220	専門科目群I	Topics in Japanese Manga and Animation	2	選択					Progress toward deep understanding of animation and mastery of the interpretive tools needed to make sense of this important popular phenomenon. We range in history from the first Japanese animations in the early 20th-century to within the past few years and will also cover a variety of genres, from children's fairy tales to war propaganda, science fiction and fantasy, crime/thrillers, and experimental works.	○	◎	○					
221	専門科目群I	日本語の文法A	2	選択		○			「日本語の文法A」では、中学校・高等学校の国語科教員になるための国語文法（学校文法）を理解することを目的とする。また、日本語母語話者は、自身の母語である「日本語」を見つめ直すことによって、日本語学習者は、自身が学習した「日本語」を考え直すことによって、言葉に対する分析力や論理的思考力を養うことも目的とする。		○	○		◎			○
222	専門科目群I	日本語の文法B	2	選択					「日本語の文法B」では、外国人に日本語を教えるための日本語文法を学ぶ。まず、形容詞や動詞などの品詞、活用、文の特徴と種類、文の成分などを学ぶと同時に日本語学習者がどのように文法を学ぶのか、初級日本語の教科書からも観察する。そして、得た知識を基に実践的な文法の教え方について考える。また、テンス、アスペクト、ヴォイスなどは日本語教科書でどのように教えられているのか、簡単に観察する。			○	○		◎		○
223	専門科目群I	日本語の語彙・意味	2	選択					この授業では、日本語・日本語教育学の専門的知識として日本語の語彙論・意味論について幅広く学ぶ。主な授業内容は、日本語の語彙を、語の内部構成や意味、語彙の体系、計量的分析などの視点から観察する。そして、語彙をこれらの視点から考えることで、日本語の語彙・意味のさまざまな面を理解し、日常的な表現を自分で分析したり説明したりできるようにする。		○	○		◎			○
224	専門科目群I	日本語の音声	2	選択					この授業では、日本語音声学の基礎知識を身につけることを目標とする。日本語教育のための日本語の音声の仕組みを体系的に学ぶ。日本語の音声に関する理論や知識を受動的に学ぶのではなく、自分自身の声を客観的に観察し、内省することを通じて音声学の知識を深める。授業は講義パートと演習パートに分け、演習パートではペアやグループでアクティビティやディスカッションを行う。			○		◎			○
225	専門科目群I	英語で読む社会	2	選択		○			国際的な場面で日本社会について英語で説明できるよう、日本社会について英語で理解し説明する力を養うことを目的とする。日本社会の基本的な仕組みや制度、時事的な話題をテーマとした英文を読み、関連する表現を学びながら理解を深める。内容を要約・発表する活動を通して、英文読解力や語彙力を高めるとともに国際コミュニケーションに活かせる表現力を培う。	○			◎				○
226	専門科目群I	英語で読む文化	2	選択		○			日本の文化について英語で理解し、説明する力を養うことを目的とする。食文化、年中行事、伝統工芸、伝統芸能、価値観など、多様なテーマに関する英文を読み、背景や意味をふととともに、自分の言葉で紹介する力を培う。英文読解力や語彙力を高めつつ、異文化との比較を通して日本文化を客観的に捉え、国際的な視野と表現力を伸ばす。	○			◎				○
227	専門科目群I	英語で読む文学	2	選択		○			アメリカの短編小説を精読し、作家の伝記的背景や文化的・歴史的要素を踏まえて、物語の構成や登場人物の心理を丁寧に読み解く。日常生活の描写、心理描写、会話などの英語表現を学び、語彙力と読解力を高める。解釈や考案について発表や討論を行うことで批判的思考力、分析力、表現力を高め、自分の意見を英語で表現できる力を身につける。	○			◎				○
228	専門科目群I	中国語コミュニケーションI	2	選択		○			中国語I～IVの履修をふまえて、初級文法の学習を終えている学生を対象とする。初級クラスで習得した発音・語彙・文法などの内容を復習しながら、中級文法を学習し、中国語の構文構造を正しく理解し、初級から中級へのレベルアップを目指す。重要なポイントを繰り返し練習しながら、徐々に「自分のこと」や「日本のこと」を中国語で伝えられるよう運用能力の向上を図る。				◎			○	
229	専門科目群I	中国語コミュニケーションII	2	選択		○			中国語コミュニケーションを履修した学生を対象とする。既習した文法、単語を復習しながら、語彙の拡充と中級文法の運用力向上を図る。身の回りのことからSNSや社会問題まで、さまざまなテーマを取り上げ表現の幅を広げる。また実践的な会話練習を通して、既習した単語や文法を用いて実際に中国語を運用できる能力を育成する。授業終了時に中国語検定4級または3級合格レベルに到達することを目指す。				◎			○	

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
230	専門科目群I	クリティカル・リーディングA	1	選択		○			クリティカル・リーディング（そのテキストについて、内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさなどを「理解・評価」したり、自分の知識や経験と関連づけて建設的に批判したりするような読み【文部科学省】）の技能を習得することを目的とする。文献を正確に理解したうえで、その内容や表現に関するディスカッションを行い、さらに批評文を書く。Aでは、言語や文学に関する文章を扱う。					○	◎		
231	専門科目群I	クリティカル・リーディングB	1	選択		○			クリティカル・リーディング（そのテキストについて、内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさなどを「理解・評価」したり、自分の知識や経験と関連づけて建設的に批判したりするような読み【文部科学省】）の技能を習得することを目的とする。文献を正確に理解したうえで、その内容や表現に関するディスカッションを行い、さらに批評文を書く。Bでは、歴史や比較文化に関する文章を扱う。					○	◎		
232	専門科目群I	国際文化プロジェクト	2	選択	○	○	○		グローバル社会を多面的に捉え、そこから自らの見解を形成し、課題を発見・解決する力を養うことを目的とする。文化の多様性や世界における日本の位置づけを理解しつつ、関心のある国や地域の言語・文化・社会を調査・分析する。得た知見を論理的にまとめ発表することで、教養や技能を活かし、協働的に問題解決に取り組む力を育成する。	○						○	◎
233	専門科目群II	韓国語プロジェクト(話す・聞く)I	2	選択	○	○	○		この授業では、社会づくりに貢献できる人材育成という目標のもと、大学内の人、もの、こと、場所について深く理解し、その内容を学内外に韓国語で表現することができるようになることを目指す。韓国語による、ある社会的活動を実現するために必要な言語、文化、社会について学習者が主体的に学ぶ授業である。したがって、コミュニケーション能力をコミュニケーションする中で学ぶことになる。			○	◎			○	
234	専門科目群II	韓国語プロジェクト(書く・読む)I	2	選択	○	○	○		「韓国語プロジェクト（話す・聞く）I」と連携し、受講生が主体的に成果物を作成する過程で、必要な韓国語の語彙・表現、ICTスキルを身に付けることを目指す。具体的には、チームのメンバーと協働しながらキャンパスやキャンパス周辺地域に関わる人・もの、こと・場所について深く理解し、情報を取捨選択した上で、字幕・編集を工夫した動画にまとめ、学びの成果を学内外に発信する。				○	◎			
235	専門科目群II	韓国語プロジェクト(話す・聞く)II	2	選択	○	○	○		この授業では、社会づくりに貢献できる人材育成という目標のもと、自分のキャリア形成過程を韓国語で表現することができるようになることを目指す。韓国語コミュニケーションIで学んだことを土台に、韓国語による、ある社会的活動を実現するために必要な言語、文化、社会について学習者が主体的に学ぶ授業である。したがって、コミュニケーション能力をコミュニケーションする中で学ぶことになる。				○	◎			
236	専門科目群II	韓国語プロジェクト(書く・読む)II	2	選択	○	○	○		「韓国語プロジェクト（話す・聞く）II」と連携し、受講生が自身のキャリア形成につながる成果物を主体的に作る過程で、必要な韓国語の語彙・表現、編集スキルなどを磨くことを目指す。具体的には、受講生同士の対話を通して自分自身を丁寧に振り返り、今後の目標や望み生き方を熟考した上で、読者を惹きつけるレイアウトやデザインを工夫した成果物(エッセイや記事)にまとめ、学内外に発信する。				○	◎			
237	専門科目群II	韓国語プロジェクト(話す・聞く)III	2	選択		○	○		この授業では、韓国語プロジェクトIIで学んだことを土台に、ある社会的活動を実現するために必要な韓国語について学習者が主体的に学ぶ授業である。他者や自分の生き方、暮らし方、大切にしていることなどを理解し、現段階の自身の想いや考え、アイデンティティ、変化などを言語化していくとともにそれを韓国語で発信することによって内容に深める。コミュニケーション能力を他者との相互作用を通じて学ぶことになる。			◎	○				○
238	専門科目群II	韓国語プロジェクト(書く・読む)III	2	選択		○	○		連携科目である「韓国語プロジェクトIII」の調査・分析活動で得た情報を基に自分自身の考えを整理し、テーマ・内容・構成を熟考した上で、字幕・編集に工夫を凝らした成果物を制作・発信する。また、視聴者から得られたフィードバックをクラスで共有し、クラス全体の学びと学内外における韓国語コミュニケーション創りにつなげることを目指す。			◎	○				
239	専門科目群II	韓国の歴史	2	選択	○				本講義では、古代から現代に至る韓国の歴史を学び、現代社会を理解するための基礎的知識を身に付けることを目標とする。厳しい日韓関係の中で偏見を超え、政治的立場に左右されない学問的な視点から歴史を分析し理解する姿勢を養う。建国の起源、王朝の制度と文化、近代の植民地政策や独立運動、南北分断や民主主義の定着などを取り上げ、受講生はそれらを通じて「歴史」に関する自分の意見を論理的に説明する力を培う。	○			◎				
240	専門科目群II	韓国の政治と社会	2	選択		○			本講義では、韓国の伝統や生活文化、政治体制、経済発展、社会問題などに関する基礎的理解を提供する。厳しい日韓関係の中で偏見のない理解を深めることを重視し、両国の相互協力に資する視点を養う。韓国の民主化の過程や急速な経済成長、その背後にある社会問題、さらにドラマや音楽に表れる社会像などを題材とし、社会的観点から分析することで、将来的な日韓比較研究の基盤を築くことを目標とする。	○		◎					
241	専門科目群II	韓国の映像と文学	2	選択		○			本講義では、韓国の文学と映像作品（小説、随筆、詩や原作が映像化された作品など）を通して、文化・歴史・社会・政治など多面的な側面を理解する。文学表現に対する鑑賞力を養い、文化や国の違いを正しく認識することを目標とする。また視聴覚教材を活用し、発表や意見交換を行う。さらに授業内での振り返りや発表活動を通じて双方向の学びを促進し、主体的に学習する姿勢を培う。	○			◎				
242	専門科目群II	日韓通訳技法I	2	選択	○	○			2クラス（初級・中級）を開講し、通訳の基礎（情報・求められる知識・技術など）を学ぶとともに実践的な訓練を行う。初級クラスでは、課題音声を用いた基礎力（語彙・表現力、音声表現力）強化のための訓練を重ね、韓国逐次通訳の聴取発表・分析を行う。中級クラスでは、課題音声を用いた逐次通訳訓練を重ね、各人が関心のある映像を用いた韓国（留学生の場合は日韓）逐次通訳発表（教室での発表）に挑戦する。	○		◎					○
243	専門科目群II	日韓通訳技法II	2	選択		○			「日韓通訳技法I」に続く授業として、通訳に対する理解を深めるとともに、実際のインタビューやニュース番組など様々なテーマと資料を用いた練習を通して、逐次通訳のスキル（聞き取り、ノートテイキング、シャドーイング）を身に付ける。また、ペアやチームで通訳する映像を決め、韓国および日韓逐次通訳発表にチャレンジする。	○			◎				○
244	専門科目群II	日韓翻訳プロジェクトI	2	選択	○	○	○		翻訳の基礎（翻訳に関する知識・技術、日韓両言語の特徴など）を学ぶとともに、翻訳を実践する過程で日韓両言語の語彙・表現力を磨き、より深い翻訳について考えることを目指す。各回、日韓両言語の話者による対話と協働で活動を進め、最終的にはチームごとに韓国語の脚本を日本語に翻訳するプロジェクトに取り組み、その脚本を知らない人たちにに向けて魅力が伝わるような発信を行う。				◎				
245	専門科目群II	日韓翻訳プロジェクトII	2	選択		○	○		「日韓翻訳プロジェクトI」に続く科目として、翻訳に対する理解を深めるとともに、チームのメンバーと協働して日韓（あるいは韓国）翻訳物制作の企画を立て、実践する。翻訳・翻訳チェックを行う過程で日韓両言語の語彙・表現力を磨くとともに、誰かの役に立つ翻訳物を制作・発信し、学びの成果を社会に還元することを目指す。	○		◎				○	○
246	専門科目群II	日韓比較文化	2	選択	○				本講義では、日韓比較を通して文化の多様性と可変性を理解し、自らの文化観を構築することを目標とする。学習者は文化現象を観察・分析・比較する高次思考力を養い、協働学習を通じて他者との理解を深める。またITを活用した情報収集や発信を行い、学術的ライティングの力も培う。1・2年次の「韓国現代文化」で扱った内容を踏まえながら学びを進展させ、21世紀を生き抜くための総合的な力を育成する。	○						○	◎

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
247	専門科目群II	日韓交流プロジェクトA	2	選択	○	○	○		この授業は、韓国語を通じて社会実践を進めていくプロジェクト学習である。社会の中で自分が設定した課題について、韓国語を活用し、他者と協働しながら成果物を制作し、社会に発信していく。課題を解決するために計画を立てて、調査・分析し、何らかの成果物を制作し、公開する。この一連のプロセスは他者との協働によって実現される。			○				◎	○	
248	専門科目群II	日韓交流プロジェクトB	2	選択		○	○	○	韓国国立仁川大学校の学生とオンライン（同時双方向型）で共同プロジェクト学習を行う。両大学の学生が自分と自分の置かれている社会を認識し、課題を把握するところから始め、その問題を解決するための計画を立てて、調査・分析をし、何らかの成果物を制作する。この一連のプロセスは他者との対話、協働によって実現される。			○				◎	○	
249	専門科目群II	韓国語検定演習A	2	選択					「韓国語I」・「韓国語II」の履修者または韓国語学習経験がある学習者を主な対象とする。各回の授業では、ハングル能力検定5級およびTOPIK初級以上の合格に必要な語彙と文型を徹底的に身につけた上で、過去問題集を中心にした練習を重ね、リスニング・読解・作文のスキルを総合的にレベルアップさせることを目指す。			○	◎					
250	専門科目群II	韓国語検定演習B	2	選択					「韓国語III」・「韓国語IV」の履修者または韓国語学習経験が1年以上ある学生を主な対象とする。各回の授業では、ハングル能力検定4級およびTOPIKII以上の合格に必要な語彙と文型を徹底的に身につけた上で、過去問題集を中心にした練習を重ね、リスニング・読解・作文スキルを総合的にレベルアップさせることを目指す。			○	◎					
251	専門科目群II	韓国語検定演習C	2	選択					「韓国語III」・「韓国語IV」以上の履修者を中心に韓国語中級レベルの学生を主な対象とする。各回の授業では、ハングル能力検定3級およびTOPIK3級以上の合格に必要な語彙と文型を徹底的に身につけた上で、過去問題集を中心にした練習を重ね、リスニング・読解・作文スキルを総合的にレベルアップさせることを目指す。			○	◎					
252	専門科目群III	国際文化演習I	2	必修		○			「国際文化演習I～IV」は3、4年次の必修科目である。3年次では研究法や論文作成法、口頭発表法を実践的に学び、4年次ではさらにそれを発展させ、みずからの見解を形成し、課題の発見に努め、4年間の学びの活動の集大成として卒業論文や報告書をまとめたり、作品を制作したりする。3年次前半に履修する「国際文化演習I」では、担当教員の指導のもとで、発表や議論を通じて研究方法を身につける。							◎	○	
253	専門科目群III	国際文化演習II	2	必修		○			「国際文化演習I～IV」は3、4年次の必修科目である。3年次では研究法や論文作成法、口頭発表法を実践的に学び、4年次ではさらにそれを発展させ、みずからの見解を形成し、課題の発見に努め、4年間の学びの活動の集大成として卒業論文や報告書をまとめたり、作品を制作したりする。3年次後半に履修する「国際文化演習II」では、担当教員の指導のもとで、発表や議論を通じて、各自の課題研究に取り組む。			○				◎	○	
254	専門科目群III	国際文化演習III	2	必修		○			「国際文化演習I～IV」は3、4年次の必修科目である。3年次では研究法や論文作成法、口頭発表法を実践的に学び、4年次ではさらにそれを発展させ、みずからの見解を形成し、課題の発見に努め、4年間の学びの活動の集大成として卒業論文や報告書をまとめたり、作品を制作したりする。4年次前半に履修する「国際文化演習III」では、担当教員の指導のもとで、「卒業論文」または「卒業制作」をまとめるための準備を行う。							◎	○	
255	専門科目群III	国際文化演習IV(卒業論文または制作を含む)	4	必修		○			「国際文化演習I～IV」は3、4年次の必修科目である。3年次では研究法や課題について発表や議論を行う。4年次ではそれをふまえ、自らの見解を形成し、課題の発見に努め、4年間の学びの活動の集大成をはかる。4年次後半に履修する「国際文化演習IV」では、担当教員の指導のもとで、学生が各自の研究・調査を学術論文の形式にしたがってまとめる「卒業論文」または「卒業制作」の仕上げを行う。			○				◎	○	
256	専門科目群III	コミュニケーション・インターンシップ	3	選択		○			日本語教育を実施するための海外インターンシップである。出国前に、教材・教案作成およびリハーサル授業を準備として入念に行う。現地では、訪問先の日本語学習者と積極的に交流し、グループに分かれて日本語の教育実践を行う。帰国後は担当教員および参加者間で反省会を行い、お互いの授業についてディスカッションをし、よりよい授業ができるように改善を図る。							◎	○	
257	専門科目群III	国際文化研修A	2	選択	○	○			海外研修の科目である。研修地となる国や地域について事前に勉強した上で、現地において身をもって体験し、新たな知識と視野を獲得することが目的である。海外の、主に提携大学で実施されるプログラムで研修を行う。研修は、オリエンテーション、事前授業、研修地での活動、事後指導、レポート提出から構成される。基礎演習などで成果発表を行う。	○		○				○	◎	
258	専門科目群III	国際文化研修B	2	選択		○			国内研修の科目である。研修地となる地域を事前に勉強した上で、現地において身をもって体験し、新たな知識と視野を獲得することが目的である。また、日本文化の過去・現在・未来について考えを深め、文化観、日本観を形成する一助とする。国内に設定されたプログラムで研修を行う。研修は、オリエンテーション、事前授業、研修地での活動、事後指導、レポート提出から構成される。大学祭等で成果発表を行う場合がある。	○	◎					○		
259	専門科目群IV	国際法	2	選択					「国際法」は主に国家間関係を規律する法だが、慣習法が多く存在するなど、その内容はわかりづらい。しかし、多数の戦争を反省して人類が築いてきた、国際平和のために必要不可欠なものである。本授業は、国際平和のためにどのような役割を果たしているのかという観点から国際法の基本構造と役割を学ぶことを目的とする。国連を中心に国際社会の緊密化が進む中、国際法の関連範囲は多岐に及ぶが、その主たる分野を具体的に扱う。	○							◎	
260	専門科目群IV	国際経済学	2	選択					本科目では、国境をまたがる様々な商取引の現状とそのメカニズムを、基礎的な国際経済理論を用いて理解する事を目的とする。難解な数式は避け、できるだけリアルな現実の社会と最新のデータと結びつけて簡潔に説明する予定である。日々ニュースや新聞記事の全てを精読にするのではなく、事象の文化的背景・歴史的経緯を踏まえながら、正しい数字や適切な分析を自分で行える力を身につけることができるようになることが目標である。	○							◎	
261	専門科目群IV	国際関係論	2	選択					主要国家間の外交関係の歴史をたどることにより国際秩序の変遷を理解し、国際関係論を学ぶのに必要な基礎知識を習得することを旨とする。近代から現代に至るまでの国際関係の基底を現代国際関係の 이슈と関連させながら学ぶことによって、国際関係の基本用語・概念を把握し、今日の国際社会およびその課題がどのようにして形成されたかを理解する。	○							◎	
262	専門科目群IV	日中翻訳技法I	2	選択	○	○			中級以上レベルの中国語学習者（中検3級以上）と日本語学習者（N2以上）を対象とする。翻訳作業の手順、日中間の翻訳の特徴を理解するとともに、様々な実践的トレーニングを通じて日中・中日翻訳をするための基本的な翻訳技法を習得し翻訳の基礎を固めること、及び総合的なコミュニケーション能力の向上を目標とする。日本語と中国語の言語的相違点及びその背景となる文化的相違点を比較し、両言語の特徴についても考察する。	○		◎					○	○
263	専門科目群IV	日中翻訳技法II	2	選択		○			翻訳の基礎知識について学び、多くの分野と関連のあるさまざまな内容のトレーニングを通じ、基本技能の習得に重点を置いて、実務的な日中翻訳の能力を養成する。 理論学習以外に、日中・中日の翻訳の実践を通じて、基本的な翻訳の仕方や技巧を身につけることにも着目し、政治・経済・文化・教育・科学技術・文学などさまざまな分野の内容を選んでトレーニングする。	○		◎				○	○	

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8
264	専門科目群Ⅳ	日中通訳技法Ⅰ	2	選択	○	○			中級以上レベルの中国語学習者と日本語学習者を対象とし、基礎的な通訳スキルと知識を習得し、中国語と日本語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目標とする。 様々なビジネスシーンにおける日中・日中通訳の実践的なトレーニングを行う。事前学習でキーワードとキーフレーズをインプットし、授業では、シャドウイング、リゾダクション、リテンションなどの通訳訓練法を用いて、逐次通訳演習を行う。	○		◎				○	○
265	専門科目群Ⅳ	日中通訳技法Ⅱ	2	選択		○			日中通訳技法Ⅰの学習内容を発展させ、政治・経済・環境・ITといった分野別の通訳の実践練習を通じて、通訳スキルの向上を図る。通訳実践の教材としては、実際の記者会見や講演会といった、現実の動画や音声素材を用いて、より臨場感あるトレーニングを行う。 併せて通訳者の倫理規定や果たすべき役割についても理解を深め、職業としての通訳者についても学ぶ。	○		◎				○	○
266	専門科目群Ⅳ	日本語教授法(教授法)	2	選択		○			本科目では、日本語教員養成に関わる専門知識・スキルとコミュニケーション能力を身につける。そのために日本語教授法の基となる外国語教授法を理論にそって学び、教えるための知識を養う。そして日本語教育への応用として特にオーディオリンガルアプローチとコミュニケーションアプローチがどのように日本語教育に影響を与えたかを理解し、実習につなげる。目標は、日本語教授法を理解し、実践できる能力を身につけることである。					○	○		◎
267	専門科目群Ⅳ	日本語教授法(コースデザイン・評価)	2	選択		○			前半はコースデザインの概要を学び、学習者に合わせた目標、シラバス、スケジュール、教材、授業方法をどのように決めていくかを理解し、最後に仮想のコースデザインを作成してみる。後半は学習評価の基礎について学びながら、実際にどのような評価方法があるか、事例を見ながら理解を深め、仮想のテストを作成して理解を確認する。					○	○		◎
268	専門科目群Ⅳ	日本語教授法(教材・教具)	2	選択		○			この授業では、主に教材作成に伴う「教材開発」を中心に、教材作成に伴う教材の分析研究、教材の作り方、教具の使い方を学ぶ。教材の分析はレベル別の教材、技能別の教材、マルチメディア教材を含む視聴覚教材などの分析と作成を行う。そして、実際に教材を立て、教材を作成して発表してもらう。また、従来の教材開発に加え、これからの日本語教育に必要とされるテクノロジーを活用した教材開発についても学習する。					○	○		◎
269	専門科目群Ⅳ	日本語教育事情	2	選択					日本語教育の5区分のうち、社会・文化・地域に関わることについて学ぶ。世界と日本の日本語教育事情については、その実例を、教員作成のDVD（ゲスト講師に対する教員のインタビュー）を開きながら学ぶ。国内外の日本語教育の動向を概観し、今後日本語教育は国境を超えて、どのように広がっていくのか、自らがどのように関わっていくのかを考察する。	○					○		◎
270	専門科目群Ⅳ	日本語教育実習Ⅰ	2	選択		○			日本語教育プログラムに基づいた教育実践を行うために、プログラムの構成要素及び、構成手段、改善方法について理解する。まずは、「日本語教育の参照例」の理解の確認を行った上で実践研修を行う。授業計画において、到達目標の設定（Can-do）、場面設定、指導項目の設定（文型導入）、授業構成・展開（固定的練習・創造的練習）、教員作成と授業のシミュレーションなど授業計画の一連の流れを理解する。					○	○		◎
271	専門科目群Ⅳ	日本語教育実習Ⅱ	2	選択		○			日本語教育プログラムに基づいた教育実践を行うために、プログラムの構成要素及び、構成手段、改善方法について理解する。授業計画において、到達目標の設定（Can-do）、場面設定、指導項目の設定（文型導入）、授業構成・展開（固定的練習・創造的練習）、教員作成と授業のシミュレーションなど授業計画の一連の流れを理解する。					○	○		◎
272	専門科目群Ⅳ	異文化間コミュニケーション論	2	選択					この授業では、グローバル化がすすむ社会や世界との関わりの中で、文化背景の異なる人々との円滑なコミュニケーションを行う力を育成することを旨とする。まず、異文化間コミュニケーションとは何かを理解し、西洋文化・東洋文化と比較しながら学んでいく。さらに英語が使われている国・地域の文化を通じて、表現力（言語と非言語）への理解を深め、言語教育の授業に資する知見を身に付ける。	○						◎	○
273	専門科目群Ⅳ	第二言語習得論	2	選択					この科目は、日本語教育、英語教育をふまえて第二言語習得に関する基本的な理論とその応用について学び、授業では第二言語習得の理論を学んだ上でディスカッションを中心に授業を進める。まず、我々は言語をどのように処理し記憶するのか、学ぶ、そして母語をどのように習得し、第二言語をどのように習得していくか概観する。特にクラッシュの5つの仮説について概観した後、母語の転移についてディスカッションしながら学ぶ。	◎							○
274	専門科目群Ⅳ	社会言語学	2	選択					社会言語学は、「言語」と「社会」の相關関係を総合的に研究の対象とする。日常的に生活する地域、階級、性別など様々な社会的要因との関係性で言語の多様性を見る。社会言語学の研究領域における主要なテーマに関して基礎的理解を深める。社会言語学についての概説から始め、様々なテーマについて考察を進める。それぞれのテーマごとに具体的な例をあげ、ディスカッションを通して理解を深める。	◎							○
275	専門科目群Ⅳ	言語学	2	選択					認知意味論と語用論の基本概念とその語例を学ぶ。認知意味論は、初めに認知意味論の考え方とカテゴリについて学ぶ。その後、メタファー、メトニミー、シネクドキという意味の広がりをもたらす現象について例とともに考えていく。授業の後半は語用論で、主に発話行為とグライスの理論、グライツネスを、日本語と英語の例をもとに考える。	◎							○
276	専門科目群Ⅳ	家族論	2	選択	○				日本の現代家族の現状を歴史的な変化を踏まえながら理解することを目的とする。テキストを読み進めながら、家族の多様性や課題について理解を深める。テキストの各テーマに関して、諸外国との比較を行うことで日本を客観的に捉える。授業終盤では、グループディスカッションで相互の意見交換を行い、日本の政策的課題についての意見を表明できるようにする。	◎	○	○					○
277	専門科目群Ⅳ	アジアの女性論	2	選択		○			この科目では、アジアのさまざまな国や地域を取り上げ、経済の発展段階がそれぞれ異なるだけでなく、社会や文化、宗教、言語や民族など実に多様であることを学ぶ。アジアの国や地域の暮らしや社会、文化や宗教、慣習などについて理解を深めるとともに、アジアの女性たちが置かれた状況について、ジェンダーの視点から学んでいく。	○		◎					
278	専門科目群Ⅳ	アジア国際関係論	2	選択					まず、戦後アジアと冷戦の起源について学ぶ。次いで、西欧の東西対立とアジア各国の動向を歴史的に考察する。そして東南アジア諸国の独立過程を歴史的な流れから把握し、アメリカのベトナム戦争介入過程を解説する。また21世紀における東アジアの国際関係を考察する。なお本講義では、ドキュメンタリーや映画を通して、理解の促進を図る。	○		◎					
279	専門科目群Ⅳ	ヨーロッパの社会と文化	2	選択					本授業の目標は、ヨーロッパの社会と文化について基本的な知識と理解を得ることである。授業では、「中欧」（中央ヨーロッパ）とはヨーロッパのどの地域を指すかについて考え、中欧がハプスブルク帝国の統治下に置かれた時代から現在までの歴史的背景について確認する。社会と文化の各テーマについて、履修者が順番にミニ・プレゼン（5～10分程度）を担当し、授業前に調べた内容を発表し、理解を含める。	○		◎					
280	専門科目群Ⅳ	ヨーロッパ地域文化研究	2	選択					19～20世紀の中欧地域の文化と歴史的背景を知り、他地域とも比較し、その特徴を理解することが目標である。中欧地域は近代以降、周辺の諸帝国の支配下に置かれ、国家としての独立を失った。第1次世界大戦後に独立したが、第2次世界大戦後には多くが社会主義国となり、さらに冷戦終結に伴う再度の体制転換を経験して現在に至る。この共通の歴史的经验のもと、西欧と異なる民族的文化的多様性に富む複雑な社会が形成された。	○		◎					

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8
- 文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くとともに、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8
281	専門科目群Ⅳ	漢文講読	2	選択					受講生が漢文資料を読むための広い知識と読解技能とを習得し、その背景となっている様々な社会的・文化的事象に関する分析を通して、漢文が「国語」として位置づけられていることの意味を明確に捉えるとともに、中国や東アジア諸国の文化・歴史についても関心を持つようになることを目標とする。なお、国語科教員（中・高）を目指す履修者においては、教科教育に関する基礎的・実践的な指導力を身につけることも目標とする。		○						◎
282	専門科目群Ⅳ	書道(書写中心)	2	選択		○			文字を正しく整えて書くという学習を通し、日常生活の中でも文字を意識して書く習慣を身につける。文字を書くことに対する自信をもとに充実した生活や生涯学習の基盤を形成することが本科目の目標である。文字について理解し、同時により高い書写能力を養う。そのために文字に関する基礎知識から始め、書道の用具・用材、漢字とその書体について理解したのち、具体的な書法について学ぶ。毛筆・硬筆を相互に取り入れ指導する。			○					◎
283	専門科目群Ⅳ	経済原論A	2	選択					この講義では経済学の基礎的な知識の習得を目標としている。とりわけ現代の経済にいたるまでの歴史の推移、市場メカニズムの内容、それを取り囲む政治制度などについて詳細に説明していきたい。現代社会を理解したいと思うとき、やはりその背景にある大きな流れをつかんでおくことが必要である。市場経済とは何か、という問題からはじめ、各時代の重要な経済的な問題について概観する。	○							◎
284	専門科目群Ⅳ	経済原論B	2	選択					この講義では、経済原論ⅠないしAで学んだ基礎的な経済的な知識をもとに、マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、国際経済学といった専門に進むための基礎をさらに深めていく。この講義を受けることにより、さらなる専門の学びにスムーズに対応できると同時に、現実的な社会問題についての視座を獲得できるものと考ええる。帝国主義の時代以降の経済的な問題について、各時代の特徴を概観し、現代の問題までを考察したい。	○							◎
285	専門科目群Ⅳ	自然地理学	2	選択					地域の自然的基盤の解明をめざす自然地理学について主題別に講義する。高校地学の内容とも重なる側面があるが、「地学」を履修していなくても、十分に理解が進むようにしたい。高校の地理歴史科教員および中学校社会科教員に必要不可欠な基礎的素養が身につくように授業を進める。本科目では内容を大きく分け、個別的に説明していくが、その際、自然環境の全体像が見失われないように心がける。	○							◎
286	専門科目群Ⅳ	人文地理学	2	選択					人文地理学の理論と方法、人間生活、経済活動、現代の諸課題の分野について学ぶ。人文地理学の理論と方法では、地理学の科学としての展開や主要概念、研究の手法等について学ぶ。人間生活では、人間による環境認知や居住空間の構成等を、経済活動では、大分類された産業ごとにその地域的特色や空間構造を学ぶ。現代の諸課題については、移民や民族、不平等、環境破壊、自然災害等の問題への人文地理学からの取組を学ぶ。	○							◎
287	専門科目群Ⅳ	地誌	2	選択					ローカルな地域と世界各地の地域の2つのトピックについて学ぶ。ローカルな地域については、事例地域の特徴とその形成過程について学び、身近な地域の地誌をまとめる方法を身につける。世界各地の地域については、世界の様々な地域の特徴を学び、多様な世界の文化や経済等を理解する。これらの学習を通して、現代世界に生きる人々が生活する多様な規模の地域とそれらのグローバルな結びつきについて考察し理解を深める。	○							◎
288	専門科目群Ⅳ	文化遺産	2	選択					まず、様々な民族誌的知見を理解するために必要な概念について学ぶ。次に先住民社会における「伝統の継承」に関する事例を検討し、文化を「遺産」として継承していくことについて考察を深めていく。さらに「世界遺産」の概念や制度を検討し、その中に含まれる多様な「遺産」の在り方について学んでいく。最後に「伝統」や「文化遺産」が現代社会やその未来に対して持ちうる意味や、それを維持し伝えていく意義について考察する。	○							◎
289	専門科目群Ⅳ	生涯学習論	2	選択					この科目は、生涯学習の概念、歴史、生涯学習施設としての博物館・図書館、生涯学習施設の職員、人間の発達と生涯学習、子ども・青少年・大人・高齢者と生涯学習、地域・多文化共生と生涯学習、Disability・ジェンダーと生涯学習、生涯学習の評価について学ぶ。新着のニュースや話題、研究成果なども紹介する予定である。	○							◎
290	専門科目群Ⅳ	文化資源論	2	選択					文化とは何か、資源とは何か、文化資源とは何か。文化資源論・文化資源学とはどのような経緯で構築されてきたか。文化を資源として捉えるとき、どのような考察ができるのか。本科目では、具体的な研究者・研究例から学ぶ。混沌の現代世界と自身の狭い身辺において、資源として捉えたときの文化の過去・現在を知り、未来を考える。	○							◎
291	専門科目群Ⅴ	教育原理	2	自由					教育とは何か、その語源を押さえつつ、教育とは歴史的にどのように存在し現代にいたっているか、また21世紀社会においてどうあるべきか、問題関心を共有しつつアプローチしていきたい。 なかでも近代日本における教育の歴史的発展をおさえつつ、さらに現代教育の骨格を形成している日本国憲法のもとで行われた戦後教育改革の意義と内容について正確な把握を行っていく。あわせて現代教育の政策的課題や学習と学校の今後の在り方についても考察を加えていきたい。 同時に世界に眼を転じて、西欧近代から現代への教育と教育思想の歴史的発展をおさえつつ、現代世界に受容されている「生涯学習論」の内実と意義を確認しつつ、OECDの国際学力調査の動向や欧米における教育改革の進展についても考察を加えていく計画である。	○							◎
292	専門科目群Ⅴ	教育課程論	2	自由					学校の教育課程（カリキュラム）の国家的・大綱的基準である学習指導要領の中心的な内容（基本方針、特徴等）について、多角的に展望するための基礎的な知識や概念について概観する。この授業については、現代日本の教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念、日本の教育課程の安達の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴、近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題について学習する。あわせて、それを基盤的に支える思想やそれに関連する基礎的な知識・理論、学校・地域の実態や教育改革の諸動向を踏まえつつ、学校現場において教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点と実践力の基礎を身につけられるように展開していく。	○							◎
293	専門科目群Ⅴ	教職論	2	自由					今後の教職科目の履修に際して、学校・教員に関する基礎的事項について理解しておくために、今日の学校教育が抱える様々な課題と、その主たる担い手である教員の役割や責任について外観する。この授業では、「教職とは何か」、「これからの教員に求められる資質・能力とは何か」、「教員の仕事と役割とは何か」、「どうすれば教員になることができるのか」、「教員は法律上どのような責任と義務（勤務・研修・身分保障など）を負っているのか」、等の教職にかかわる基本的な事項について幅広く学習する。あわせて、教科・科目に関する知識を教えるだけでなく、広い視野にたち、思いやりのある人間性豊かな子どもたちを育成することが求められていることを理解できるように展開していく。	○							◎

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP 1

DP 2

DP 3

DP 4

DP 5

DP 6

DP 7

DP 8

文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。

世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。

自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。

一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。

日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。

必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。

異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。

習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

[illegible]

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
DP 2
DP 3
DP 4
DP 5
DP 6
DP 7
DP 8
- 文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達することができる。
必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8		
304	専門科目群V	特別活動論	2	自由					日本の学校教育において、特別活動はキャリア教育の要として教育課程に位置付けられている。生徒の全人的な成長を促すための教育活動の一つとして、特別活動は重要な役割を担っている。特別活動の教育的な理念を踏まえ、生徒を指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解する。 特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付けるよう具体的な事例を通して、考察していく。	○								◎	
305	専門科目群V	生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2	自由					生徒指導は、生徒に対する総合的な指導であり、教育活動上、重要な位置をしめる。そのため、文部科学省は、教員への助言として生徒指導の基本原理や基本的事項・心得をまとめた「生徒指導提要」（平成22年3月。文部科学省）を発行するとともに、それをもとにした実践を期待した。そこで、本授業では「生徒指導提要」の概略の理解を第一義とし、さらに、生徒指導の実践に対する深い見識を持つことを目標とした。また、この中には進路指導・キャリア教育も含まれるため、それらについても理解を深める。	○								◎	
306	専門科目群V	教育相談(カウンセリングを含む)	2	自由					現代の学校でおきている不登校、いじめ、非行などの問題を通して、思春期・青年期にある生徒に特有の心の特性を、教師として受容的・共感的に理解し、自ら乗り越えることを通じて人格的成長を促す関与、態度を養う。また、教育相談の理論的・技術的な基本となるカウンセリングの理論と方法を学習し、生徒の相談に応じるための聴き方、傾聴的関わりを実践できることをめざす。さらにカウンセリングの基本となる考え方を自らの教育実践に生かすことのできる教師になることを期待している。	○									◎
307	専門科目群V	介護等体験	2	自由		○			この授業は、特別支援学校及び社会福祉施設での介護等体験とその事前・事後指導で構成される。 この授業の目標は教員として必要な人間関係能力を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する認識を深めることである。そのため、特別支援学校の児童・生徒及び社会福祉施設の利用者などのさまざまな人々の生き方、相手の立場を尊重した接し方など、互いを尊重した人間同士のコミュニケーションを通して教師としての在り方を模索する。 また、特別支援学校及び社会福祉施設での実習を通して、教員を目指す者として人間の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることを目指す。	○								◎	
308	専門科目群V	教育実習(事前及び事後指導を含む)	3	自由		○			教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえ教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面談を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。	○					○			◎	
309	専門科目群V	教育実習II	2	自由		○			教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえ教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面談を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。	○					○			◎	
310	専門科目群V	教職実践演習(中・高)	2	自由		○			この授業は教職課程の総まとめの科目であり、これまでに学んだ教職に関する知識、専門教科に関する知識、そして教育実習で得た経験、さらに教職インターンシップや学習チャーター等で得た知識・技能を統合して、振り返りをおこなっていく。将来、教員としての責務を果たすために求められる教育実践において補わなければならない点を認識し、それを補い、発展させるために模擬授業、フィールドワーク、グループ討論等を通して学び身に付けて、学校現場で活躍できる教員を目指す。	○					○			◎	